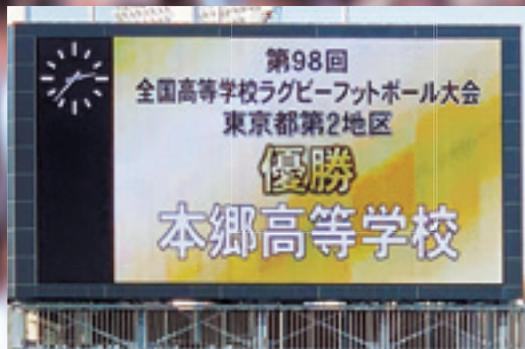


銀友 No.48

2019.05

本郷学園同窓会



◆ 総会のお知らせ ◆

日時 2019年6月15日(土) 15:00より

場所 本郷学園1号館2階会議室

学園より「教育振興資金」ご寄付のお願い

同窓会会員の皆様には日頃より学園運営に多大なるご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。お蔭様で生徒たちは、授業、部活のみならず、学内外行事にも主体的に参加するなど、多方面に亘って積極的に活動を続けております。

さて、学園では、2号館をはじめとした校舎の新・改築、グラウンド人工芝改修などが一段落し、現在はICT環境の整備・充実、図書室環境・書籍の充実などを進めており、また、令和4年に迎える学園創立100周年に向けての記念行事の考案や資金の準備なども続けております。

ところで、お願いを致します「教育振興資金」へのご寄付ですが、学園の教育施設や備品の充実、生徒活動の支援など、教育内容の充実に用途を限定したご寄付の制度です。このご寄付は従前より継続してお願いしているものですが、特に金額の制限はございませんので、趣旨にご賛同いただければぜひご協力をお願いいたします。

●お申し込み方法

以下の①、②のいずれかの方法でお申し込みください。

① 電話又はFaxで学園企画管理部(旧事務室)まで「寄付申込書」をご請求ください。

- ゆうちょ銀行(郵便局)払込取扱票をお送り致します。
- 金額・必要事項をご記入の上、郵便局窓口又は、郵便局ATMにてお払込みください(払込手数料は当学園負担)。
- 払込取扱票は、寄付申込書を兼ねておりますので、お手数ですが、必要事項を漏れなくご記入ください。

担当: 学校法人本郷学園 企画管理部長 石田祐一、佐藤幸子

電話 03-3917-1456、 FAX 03-3917-0007

② 学園公式ホームページ (<http://www.hongo.ed.jp/>) のトップページからお申し込みください。

- 必要事項をご登録・送信いただいたのち、お払込み方法等の情報を学園よりメールにてお知らせ致します。

教育振興資金ご寄付の入金確認後、「払込金受領書」、「特定公益増進法人であることの証明書(写)」、「税額控除に係る証明書(写)*」などをお送りいたします。

* 税法上の寄付金控除手続きの際にご使用いただけます。

卒業生の皆様へご協力の御願い

本郷学園は2022年(令和4年)に創立100周年を迎えます。

現在、100周年の企画にむけて、学園の歴史にかかわる資料や情報の収集を行っております。2015年(平成27年)6月には2号館1階に「本郷ギャラリー」を開設し、学園の沿革・歴史が概観できるようパネルや写真を中心とした展示を始めました。

つきましては、卒業生の皆様方から学園生活にまつわる品物や情報のご提供・ご協力を賜りたく御願い申し上げます。

本郷生の学園生活も時代とともに変化してきておりますので、ごくありふれた物と思える品々でも、今日では貴重な資料となるものが多くございます。特に生徒の立場で使用された物や時代の古い物等は学園側には保存されておられません。例えば以下のような品物を探しております。

- 学帽・学生服や運動着、学用品や教材類
- 部活動や同好会活動などの部誌、記念品など
- 学校行事のしおりなどの印刷物や写真類
- 学校や生徒を紹介した新聞・雑誌等の掲載記事
- 音声や映像(カセットテープ、8ミリ、ビデオテープ…)
- 卒業生の著作物
- 旧制中学時代(戦前・戦中)の品物や卒業証書など
- 卒業アルバム(特に昭和20年代までは欠本が多く、探しております)

また、学園にまつわるエピソード・思い出話などの情報(先生・級友との思い出、学園生活や駒込・巣鴨の様子…)もお寄せ下さい。

資料のご提供の方法は、必ずしもご寄贈の形ではなくとも結構です。一旦お借りしてデジタルデータ等の複写・複製をとり、後日原本を返却させて頂く方法も行っております。各資料に応じて個人情報保護の対応も致します。

お問い合わせ、連絡先は以下の通りです。是非ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

本郷学園 校史編纂室

担当 齋藤悦正

〒170-0003 東京都豊島区駒込4-11-1

03-3917-1456(代) E-mail y-saito@hongo.ed.jp

p3

「あじさい」

● 本郷学園同窓会 会長

1956年〓昭和31年卒業 南谷

修(高校8回生)

● 学校法人 本郷学園理事長

松平 頼昌

p5

投稿

● 花園は、……行く場所なんだ

2019年〓平成31年卒業 島田 耕成(高校71回生)

● 第98回全国高等学校ラグビーフットボール

大会出場とラグビー部60周年

1976年〓昭和51年卒業 黒沢 邦夫(高校28回生)

● 決勝戦に思う

1954年〓昭和29年卒業 小林 金則(高校6回生)

● 本郷精神よみがえる!

1956年〓昭和31年卒業 新澤 米次(高校8回生)

● 本郷OBに囲まれた60年

1957年〓昭和32年卒業 田辺 博昭(高校9回生)

(旧姓:岡田)

p16

「本郷の先輩たち」

p22

染井能舞台物語パート3

p24

同期の輪

「はたちの集い」ほか

p29

トピック

● 第六回本郷医師の会

1996年〓平成8年卒業

本郷医師の会幹事長

杉下

和行(高校48回生)

p30

2019年度事業計画・予算案

p32

2018年度事業・決算報告

p34

2018年度定期総会報告

1966年〓昭和41年卒業

山際

幸雄(高校18回生)

p36

2018年度表彰報告

p38

本郷学園同窓会役員(案)

p39

学園だより

● 2019年春大学入学試験合格実績

p40

本郷学園同窓会会則

p42

本郷学園同窓会会費納入者一覧

p45

計報



本郷学園同窓会
会長

南谷 修

1956年=昭和31年卒業
高校8回生

同窓会の皆様、日頃より会の運営にご理解、ご協力を頂いており、誠にありがとうございます。

今年の入学式は桜満開をすこし過ぎましたが、花舞うなかで挙行されました、平成最後の式典となり、令和の始まりとなりました。

それに合せたように、入学式では新理事長、松平頼昌先生が祝辞を述べられ、二人の思いでありました。

平成の終りとともに松平頼武理事長が退任なされ、今期、松平頼昌理事長となられました。

頼武前理事長は、平成2年2月24日に就任なされて以来、平成を担って参りました。文武両道、強健、厳正、勤勉であり、紳士たれ、スマートであれと、校風を貫いてくれました。

今では屈指の進学校に築き上げるだけでなく、スポーツ、文科、化学の面

でも全国大会で活躍している学校に育てていただきました。

誠にありがとうございます。

本郷学園の卒業生は旧制4,021人、新制で27,310人であり、331,331人となりました。多くの同窓が学園の後援をしまして参りました。

同窓の皆さんと共に、松平頼武先生に深く感謝申し上げます。なお頼武先生は名誉理事長になられました。

松平頼昌新理事長となられ令和の時代に斬新な考えの基で、更なる飛躍となることでありましょう。

よろしくお願い申し上げます。

さて、本年も、不確定要素が多く、経験則が通じない時代に突入し、五感を研ぎ澄まし「隼、鷹のスピードの目」と「うさぎの耳」を連動させて経済の原動力として台頭するデータに着目するのは必然であり、データの価値は量や重さで測れず、動きをインデックス(指標)化し、見える化して、変換する視点を養うことが大切であると存じます。

平成2年(1990年)には(頼武先生が理事長に就任なされた年)、日本勢は世界市場のシェアは49%に達していました。平成29年には7%までに落ち込みました。平成のはじめには世界市場は約500億ドルで

したが、平成30年には4,779億ドルに成長してきました。

日本は抜本的な構造転換が出来ず、損なわれた20年が30年になり、検査の改竄問題など企業の倫理観の劣化が生じております。

充分気を付けて、皆さん自身の判断基準を大切にいたしましょう。

同窓会として、本郷祭では「先輩たち」の活躍をパネル展示し、能舞台などの過去を振り返り、卒業2年目では「はたちの集い」そして「三十歳の集い」さらに「還暦の集い」を行いさらに「同期の会」を支援し活発になりました。

生徒への表彰も多くなり、花園のラグビー大会、そして今春の新人戦で東京都で優勝し関東大会では3位になりました。文化関係では先輩から受け継いだ課題を引き継いだものをはじめ、数多の全国大会で良い成果を上げております。

新しい時代、更なる本郷で育った皆さんが絆を大切に思い、人の繋がりが大きな財産となるようにいたしましょう。

皆さんの努力とご理解をさせていただき、同窓会の活動にご協力、ご参加いただきたいとお願い申し上げます。皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

ごあいさつ



学校法人 本郷学園
理事長

松平 頼昌

同窓会の皆様には、学園のために多大なご指導とご支援を戴いておりますこと、心から御礼申し上げます。

新年度より、本郷学園の理事長を拝命致しました松平頼昌と申します。松平頼武前理事長は、理事長名譽理事長として学園へのご指導を継続して頂きますことを併せてこの場にてご報告させて頂きます。

新年度ならびに、新たに令和という元号のもと本郷学園が動き出します。そして令和4年には創立100周年を迎えることとなりますが、ここに至るには同窓会の皆様方の歴史の積み重ねの結果でありますので、喜びとともにその重さを感じるところでございます。

本郷学園が、大正、昭和、平成の時代を駆け抜け、そして新たに令和の時代に入ります。この新たな令和の時代を同窓生とともに駆けけて行きたいと思えます。

平成31年度の新入中学生は258名、高等学校は320名、もみじ幼稚園は34名。中高合わせて在学は1,730名、幼稚園は142名となります。教職員合わせますと、2,000名以上が毎日この駒込の地に通っております。そして長年、事務室と呼ばれていた機能を、企画管理部に改称致しましたことも併せてご報告申し上げます。

ところで平成30年度は、様々な分野での生徒の活躍がございました。

昨年の暮れにはラグビー部が8年ぶりに全国大会に進出致しまして、その際には同窓生からの多大なご支援を賜りましたこと重ねて御礼申し上げます。他には、科学部、社会部、地学部、陸上部など日本のみならず、

世界に飛び出す生徒もおり、学校としても生徒の活躍を嬉しく思っております。

平成30年度には、人工芝グラウンドの張替え、そして、体育館への空調設備も設置致しました。昨年の夏に全ての教室にプロジェクターを設置しまして、教育環境の充実に努めており、その投資に対しては保護者含め、同窓会からの教育環境のための支援に多くを依存している次第でございます。

2014年に中学入試の第1回目を2月1日に参入しました。これにより、徐々に本郷を希望する生徒が増え続けております。また外部からの評価も徐々にですが向上しており、佐久間校長先生のもと、確実に成果が出る希望のある生徒が集まっております。

本郷学園の未来が確実となる様に、今後も同窓会のご支援、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

花園は、 行く場所なんだ

島田耕成



2019年＝平成31年卒業
(高校71回生)

平成30年度卒業の島田耕成です。在学中は、自分が本郷で過ごした時間を振り返るということはなかなかありませんでしたが、卒業式を終えた今、6年間でかけがえのない、たくさんの貴重な経験ができたことに、改めて気づいています。

小学校1年から野球を始め、中学でも野球部に所属していました。8年間以上続けた野球を、当然、高校でも続けようと思っていました。しかし、中学野球部引退後、2015年ラグビーワールドカップでの日本代表の活躍や、東日本大会で中学ラグビー部が3位になる姿を観て、また、兄が出場した全国ラグビーフットボール大会(花園)の応援に行き、その熱さを肌で感じたこと等で、高校ではラグビー部に入ろうと決意しました。

高校1年生の頃は練習についていくことで精一杯、ラグビーのこともあまりよく分からず、体力的にもつらい日々が続きました。また、特進クラスでの勉強も今までは違う高いレベルのもので、ついていくことに必死でした。このままで大丈夫かと不安を感じることもありましたが、ラグビーが嫌だ、やめたいという気持ちになっただけは、二度もありませんでした。

2年生になると、スタメンで試合に起用してもらう機会も増え、初めの頃は感じなかったプレッシャーを感じるようになりました。勉強も、伸び悩んだ課目もありましたが、二つの転機があつたと感じています。

一つは、先輩が花園東京予選準決勝で敗退し、引退したことです。共に悔し涙を流したとき、『花園は、憧れの行きたい場所じゃない。行く

場所なんだ』という決意を新たにしました。

もう一つは、不得意な課目の勉強方法についてある先生に相談し、適切なアドバイスをもらえたことです。本当に親身になって、自分に合った勉強方法をご教示くださいました。徐々に成績も改善していき、何となく希望していた「橋大学を本気で目指そうと、強く思えたのがこの頃です。

『高いレベルでの文武両道』という漠然とした目標が、『花園出場・一橋現役合格』と、より具体的になりました。

最高学年、ラグビー部の第60代主将をやらせていただくことになりました。部員をまとめることで、責任感、周りを見て自分がどんな行動を起こせばよいかの判断力、他者とのコミュニケーションシキ力等、様々な力を培えたと思います。もっとしっかりやらなければと感じながらも、部活引退や受験までの残りの時間を考え、日に日に緊張感、焦りも増していきました。

結局は、子供の頃から言われてい

た、「勉強を部活の、部活を勉強の言い訳にしない」という言葉を胸に、自分のやるべきことを一つ一つ、しっかりとやっていく。それしかないのだと気付きました。

11月11日、秩父宮ラグビー場での決勝戦で目黒学院に勝利し、8年ぶりの花園が決まり、『二つ目の目標』が達成できました。ここから、受験が終わるまでの約4か月は、今までで、そしてこれからもなかなかないであろう、密度の濃い経験でした。部活引退は年末年始、勉強時間は自ずと短くなりましたが、花園という目標にしていた場所に立てるというモチベーションがあったからこそ、それまで以上の集中力で、ラグビーはもちろん、勉強にも向かうことができました。

花園の結果は1回戦で尾道高校に敗退と悔しい結果でしたが、『二つ目の目標』も絶対かなえようと、受験に気持ちを切り替えました。花園での引退からセンター試験まで20日、そこから二次試験まで40日。最後の最後まであきらめず、集中力を

持ち続けられたことで、一橋現役合格も勝ち取ることができました。

ラグビーと勉強、どちらの目標も達成できたことは、「強健・厳正・勤勉」を掲げ、文武両道を体現できる環境を提供してくださった、本郷学園のおかげだと感謝しています。たくさんの方々からご指導をいただき、仲間との出会いがあり、今の自分があります。本郷での生活を通して、大きく成長できました。

本当に多くのことを学びましたが、一番感じることは、『感謝の心』です。先生、家族、友人、先輩、後輩、自分はどれだけ多くの人に支えられているのか。そしてその『感謝の心』を、きちんと言葉で伝えようと思うようにもなりました。当然のことを当然だとは思わずに、『感謝の心』を持ち続け、これからも本郷OBの名に恥じないよう、大学生活を送っていきます。

そして、自分がかなえられなかったラグビー部の花園勝利を楽しみに、応援し続けます。どうもありがとうございました。



花園出場を勝ち取ったメンバー

第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会出場とラグビー部60周年

ラグビー部OB会長
黒沢邦夫



1976年＝昭和51年卒業
(高校28回生)

1. 第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会出場までの道のり

平成30年4月に発行したOB会報73号で、本郷高校ラグビー部第60代主将の島田耕成君はあいさつで、

「(中略)1月の新人大会では準決勝で東京高校に僅差で敗れ、悔しい思いをしましたが、その試合で自分達の課題に気付くこともできました。その課題を克服し、春の決勝戦で久我山に勝つことを目標に、春季大会へ臨みたいと思います。そして、『花園は行きたい場所ではなく、行く場所だ』という覚悟と決意を一人ひとりが持ち、日々の練習を大切にし、秋には花園への切符をつかみとります」と述べています。

この会報の発行後、5月の春季大会は準決勝で目黒学院にロスタイムに逆転され26―28で敗れまし

た。しかし早稲田実業を破り3位となり、6月の関東大会にはDブロックに出場し、ブロック決勝で神奈川の慶応高校に17―31で敗退します。

夏合宿後に行われた全国大会予選東京都大会の抽選結果で、順当に進めば、東京朝鮮、東京、決勝戦では目黒学院との対戦となる組み合わせになりました。厳しい組み合わせとなりましたが、順当に当たる強豪校すべてに、「花園で活躍できる東京代表」の意識で戦うことが優勝への道でした。

島田主将の言葉通り意識の高い戦いぶり、強豪校をうち破り決勝戦まで勝ち進み、会心の試合運びで念願の8年ぶり10回目の花園出場を決めたのでした。

2. 本郷高校ラグビー部60周年記念祝賀会

平成30年6月の関東大会後の7月22日に開かれた例年のOB総会は、創部60周年の祝賀会も兼ねていました。

総会当日、午前の部は人工芝が熱くて触れないほどの猛暑のグラウンドで、ABCチームの3本の練習マッチ、ホンゴリアス(本郷保護者で作ったクラブチーム)VS本郷40歳以上の対戦、その後にはOBによる本郷ラグビー技能伝承の練習【変わらぬ、本郷高校ラグビー部の気質『しつこく・激しく・絶対に折れない(諦めない)本郷魂』ラグビー部渡辺監督談】を実施。

午後の祝賀会は校舎内に場所を移し、ラグビー部の歴史をまとめたDVDを上映し、全国大会出場の記念品や大浦先生所蔵の写真などを並べ、現役、保護者、OB多数の出席のもと盛大に開催されました。

初めての企画でしたが、本郷には部誌がないため、今まで語り継がれていた公式戦の記録を、年度ごとの大会戦績を記入した大きなボード

にして、お披露目しました。

この時にも主将の島田耕成君の「花園は行きたい場所ではなく、行く場所、という覚悟と決意を二人ひとりが持ち、日々の練習を大切に、秋には花園への切符をつかみとります」と花園出場への決意を力強く述べていました。

3. 第20回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会出場への道のり

平成31年、全国大会出場から戻るとすぐに、1月13日の東京都の新人大会ベスト16の戦いです。27日の準決勝では、国学院久我山を29年ぶりに29―28で公式戦で破り辛勝。決勝戦では早稲田実業を27―20で退けて新人大会優勝をとげ、関東各都県の1、2位の高校が出場する第19回関東高等学校新人大会に出ることになりました。

2月には、水戸市で開催された全国選抜大会出場をかけた戦いに挑みます。1回戦では千葉県の専大松戸高校を57―7、2回戦は栃木の国学院栃木を19―7で破り、準決勝では桐蔭学園に50―15で

敗れはしたものの、3位となり第20回全国選抜大会2度目の出場を掴みました。

新チームは、東京都新人戦優勝、関東新人大会3位、全国選抜出場と新たな歴史を作り始め、2年連続花園出場の夢を膨らませてもらえるチームでもあます。

4. 本郷高校ラグビー部OB会の発足

前ラグビー部監督、大浦一雄先生（昭和42年着任）の口癖「お〜い、黒沢よう。何とかならんかい」。

本郷を卒業後、日本体育大学に進学した大学3年時に、本郷同期の仲間と高校で校内合宿をしている時のことでした。「もっとOB何とかならんか」と。おそらく現役ラグビー部への援助を目的とした集まりを組織的に運営したい、という意味のこの言葉がOB会立ち上げの発端になったと記憶しています。当時、家庭や学校にはパソコンもなく、携帯電話も普及する前の昭和50年代後半の話です。

私は、大浦先生が着任後の昭和42年卒業のOBたちの住所を大浦

5. 追記

先生に伺い、手作りのOB名簿を作成、自宅にプリンターなどない時代、文章もあて名もすべて手書き。ネットやメール、文書作成ソフトで、画像もデータもパソコンから取り込み印刷、住所用タックシールを貼って投函の時代とは大違いの時に船出をしました。



先壱から贈られたフライキ（大漁旗）

本郷高校卒業後、体育教師を目指し日本体育大学に入学し昭和55年3月に卒業。ラグビーに育てられた私は恩師大浦先生を目標に、ラグビーへ恩返しのもりで、高校教育の現場へ足を踏み入れ都立学校の教諭となりました。

教員生活で一番思い出が深い赴任地は、東京都新島村にある全校生徒41名の都立新島高等学校です。東京竹芝から船に乗り160km。新島村は、伊豆諸島にある東京都の村で新島と式根島の2島からなります。

温泉、ビーチなどの観光業が主で、人口は約2,600人、交通信号機は2つ。気候は、夏は湿度が都内より低いため比較的涼しく、冬は西風が強い日を除けば比較的暖かい。西高東低の冬型の気圧配置になり、東京で北風が吹くとき新島では強烈な西風が吹きます。これが冬の季節風



思い出のグラウンドに集うOB達

の西風で新島では西ん風と呼びます（風がうなり車の扉が壊れるほど強風）。

コンビニはなく商店は夜7時に閉店。販売される食品など物資は2割ほど高く、物流は船に頼っているため、台風などが接近すると船の欠航とともに島内の生鮮食料品が、すぐに枯渇します。

自然に囲まれたのどかな気候で育った村の子供たちは、保育園から高校卒業まで一緒で、保護者、生徒は非常に仲が良い。その理由の一つは、同じ苗字が多い（二クラスに前田姓が5人）ため、子供の頃から名前呼び合うことが日常生活に定着しているからでしょう。

子供たちも、島民同士も、観光客にも区別なく誰にでもあいさつをする習慣は、ゆつたり流れる時間とともに非常に心地良い。新島の方言、風習、名物にたっぷりと浸りながら過ごした5年間は、多くの島民と卒業生に出会い、穏やかな気持ちで過ごすことができた素晴らしい島の暮らしでした。

決勝戦に思う

小林金則



1954年=昭和29年卒業
(高校6回生)

11月11日。第98回全国高校ラグビーフットボール大会東京都予選決勝―秩父宮ラグビー場に於いて、本郷高校対目黒学院高校との決戦である。本郷は花園出場9回の強豪である。

青空のもと秋のすがすがしい空気の中、秩父宮ラグビー場に足早に走り着く。大勢の人込みの中、本校の父母会の皆様も多く集まり、何時もと違う輝きを放っていて、今日の意気込みが感じられた。スタンドに入り驚く。父母会の方々、OBの方々、一般の人達も含めての満員の観客席。今日は「やりそうだ」という雰囲気が漂っていたのには、私まで意気揚々の気分となった。

13時20分。高らかに審判員の笛。いざ決勝戦。本郷フイフティー

ン一斉に発進。躍動、動きが良さそう。何か振い立つ!

前半の早い時間帯に2トライ、幸先は誠にいい! その後2点差まで縮まったが心配はなかった。選手達の自信に溢れた試合経過があつたから。最終盤のトライの際のスタンドの割れんばかりの歓声と大拍手。秩父宮がどよめき、感動の坩堝と化した光景の嬉しさは、長年生きている間にも、そうはあるものではない。

そしてノーサイドの笛が大きく鳴る。28対19の本郷の優勝である。お見事! 部員全員の奮闘と全校の皆さんの協力と応援が花園への切符となった。ラグビー場全体に鳴り響く拍手は止むことを知らない。おめでとう! 嬉しい……。

優勝表彰式の全員の姿は、晴れ晴れとした達成感に満ちた表情で、本郷生として誠に立派なものであった。応援席に対する礼、隣席の目黒学園の方々への深々と頭を下げる礼の姿勢は、勝負にこだわらない、相手を想いやる正にノーサイドの精神そのものである。この場面は多くの若者、いや多くの人達に見て欲しいものであった。

本郷生は校歌にあるように「誇りの本郷学園」であり、大学生、社会人、人間として末永く誇りをもつて成長して頂きたい。本決勝戦を見る限り大丈夫であると確信した頼もしい本郷生であった。我々も見習いたい。

試合終了後、松平理事長様にお声を掛けたところ、優勝を大変お喜びのご様子。私まで倍の喜びとなり今日の良き日は、忘れることはないであろう。本郷フイフティーの皆様、本当におめでとう! ありがとう!

2018年11月11日 記

本郷精神よみがえる！

新澤米次



1956年＝昭和31年卒業
(高校8回生)

2018年3月31日をもって昭和31年卒業の高校8回生は満80歳の傘寿を迎えた。ご存命の皆様、改めてお目出度うございます。

昨年6月13日(水)午前8時30分開始の本郷学園体育祭に参加した。その時、本郷体操(写真)を50余年ぶりに見物した。永井体育館を創った永井道明先生が考案した基本体操である。一つのリズムに二つの動作が加わる大変ユニークなむずかしい体操であったことを想い出した。全校生徒のきびきびとした統率のとれた動作を見て感激した。

中高一貫教育の男子校である。私達が入学した昭和26年頃は、まだ食糧難時代であった。区立の中学校には素行の悪い生徒が多



くいたので、当時担任の先生のアドバイスで私立の本郷中学を受験した。

健康で長寿を迎えることができたのは、何が秘訣だったのだろうか。中学生時代は肉体と精神を鍛える伸び盛りで、基本的には本郷中学での基礎体操と朝の全校行進運動の練習が自然と身に付き、強健な体を作ったのではないか。

本郷学園には名物、個性豊かな先生が大勢いたような気がする。物静かなおだやかな言葉で、若者の心をとらえたマントヒヒの内山静一校長。英語を担当したイギリスカバこと井上先生。絵の基本を教えてくれたフランスカバこと服部先生。校庭の西側に農場があり、作物の作り方や接ぎ木のやり方を教えてくれた三木先生。オリンピックに日本代表で出場した器械体操の竹本、上迫先生。足の悪かった柏谷先生。本人は野球のスベリ込みで怪我をしたと強調していた。古典英語を教えてく

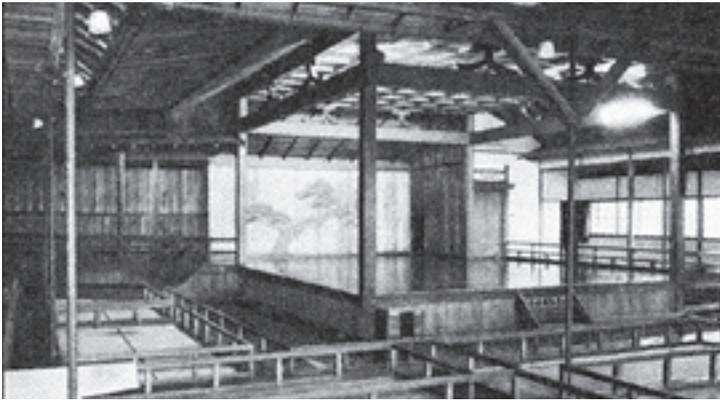
れた塚本先生。「To be or not to be. that is the question」(生か死かそれが問題だ)のフレーズは今でも記憶に残っている。高校時代本格的なサッカーを教えてくれた古賀先生。社会科の野村先生。黒縁の丸い眼鏡をかけた化学の丸山先生。さわいだり授業の妨げをした生徒へチヨークを折って投げつけ、顔を真っ赤にした社会の島田先生。社会科担当で我々3組の担任だった須賀七之丞先生は後に市川市の市議会議員になった。

今思えば本当に、名物、個性豊かな先生方が我々若かった生徒を教育してくれた。感謝の気持ちでいっぱいである。名前をあげた先生方は今日では物故者となり、天国から我々悪ガキを見守ってくれていることであろう。

本郷生は毎朝朝礼の後に、井樽先生の指導で行進の練習をした。学校の関係者がボーイスカウトの理事をしていたのか、我が校の全生徒を引き連れて明治神

宮外苑の競技場に足を運んだ。この広い運動場を全員行進で一週した記憶がある。今にして思えば大舞台での行進であった。

本郷生活で学んだ中で、能が あった。中学生の時、隅田川、末



廣、狂言等、近くの染井能楽堂(写真)へ実際に勉強しに行った。国語の時間に隅田川の物語を能舞台で見たこと。又、その時解説してくれた所作言、手の位置で昔と今を表現する、スリ足で歩くことなど教えてくれた。こんな高尚な教育もあり、今日でも思い出し感謝している。

生きた教育は永遠にその人の財産として残っている。

健康で100歳を迎える時代を我々も一歩一歩進んでいる。

最後に特記すべきことは、本郷体操がNHKラジオ体操の礎になっていることだ。1928年(昭和3年)に郵政省がバックアップし、全国に普及したNHKラジオ体操の型につながっていて、今年91年を迎えた。最近では世界にも拡がり、ブラジルにも普及している。

2022年には本郷学園は100歳を迎え、重ね重ね慶事が続く。おめでとうございます。

本郷OBに囲まれた60年

田辺博昭
(旧姓:岡田)1957年=昭和32年卒業
(高校9回生)

染井の森の学園を卒業してからの60余年は「あつと思う間もなく」過ぎてしまいました。

6年間の学園生活は青春時代の全てであります。戦後の間もない頃でしたから、衣食住満ち足りたものはありませんでした。戦後から平和の時代が変わってゆく頃の入学でしたから、「平和」と言う語音が幼心に残っております。

ですから入学当初の事は今も頭に残っています。日米平和条約の締結で徳川宗敬名誉校長が随行員として渡米した事は嬉しいニュースでした。また、オリンピックの体操のメダリスト、竹本先生や上迫先生が体育の先生だった事も感動しました。そんな平和の流れの中で「初代若乃花二行」来たるのニュースに胸を躍らされました。

駒込口の校門を入ると前方に白い校舎が見え、銀杏並木をくぐると左側に永井体育館がありました。右側には古ぼけた木造の手洗い所があり、どこことなく戦後の風情がたっぷりです。永井体育館の前の校舎には校庭に抜ける通路があり、右側に売店、その向こう隣りが職員室でした。通路を抜けると広々とした校庭が広がり、左側には農園がありました。

当時は「農業」の科目があり楽しい授業でした。その農園での農業の時間がくると生徒は「聞き耳」を立てようとはしていませんでしたが、三木先生が早口でツバをはきながら、実習で教えてくれました。今では行われていない農業の時間でしょう。

入学当初は生物部と空手部に所属しました。生物部に入部する事

は、実家が医療機器の製造業だったので、父からすれば必須の過程だったでしょう。長男には家業を継がせ、私を医者にする事が念願でした。ですから子供の頃から英才教育を受けました。名前も博昭と命名し、昭和の博士になってもらいたかったようです。

生物部の生稲君にお世話になりましたが、一向に足が向きませんでした。ホルマリンや薬品の香りがなじみませんでした。並行して空手部に入部し、校舎の前の古ぼけた手洗い所の隣接地にクイを打ち込んでワラを巻いて空手の訓練をしておりました。葛飾から登校していた関口君に見込まれ、当時は強くなるうと放課後に練習した事が懐かしい思い出になっています。

子供の頃から絵を描くことが好きでした。家の前に荒川土手があり、川向こうの四本煙突をよく描きました。絵心はその頃からでしょう。時々、美術部の部室をのぞいていました。放課後に部室に行くとデッサンの様子を見ると、やさし

そんな上級生に声をかけられました。「デッサンを描いてみませんか」とすすめられ、画材を用意してくれました。木炭を手に取り描きはじめる、その先輩から「君は上手だね」とほめられ、放課後は美術部の部室に入りびたりでした。落合（高校7回生）先輩の指導ですっかりとりこになってしまいました。根津の先輩の自宅に招待され家族の一員として、先輩のご両親に迎えられた事が、美術部入部のきっかけとなりました。

中学校時代は市川君、生稲君、内海君とは仲良しでした。ある日の昼食時、内海君が眼鏡越しに私の弁当を見て食べたそうにしていました。彼はいつも売店で買ったパンで昼食を済ませていました。「内海君交換して上げるよ」と言つて弁当を差し出すと、おいしそうにほおばって食べていました。帰りの山手線であと交換した事を思い出し後悔してしまいました。折角、母が早起きして作ってくれた弁当だったので・・・と思い、母に申し訳ない、悪い事をしてしまったと悔やんだ懐かしい思い出もあり

ます。

幸いにして、本郷OBに囲まれた60年であります。兄、息子（高校36回生）、家内の従兄弟・遠藤（高校22回生）元本郷同窓会理事、現大阪在住）、家内の中学時代の級友・中田（本郷学園同窓会）理事（高校21回生）、近所の郵便局の局長等々、大変な大世帯主になります。そして美術部OBとのつながりですから、皆で力を合わせて連合すればミニ文化祭や運動会なら開くことも可能でしょう。

美術部は、服部先生から原国先生に移行するなかで、落合先輩の指導を忘れる事は出来ません。部員は私、菊川（旧姓・・・石渡）高校9回生）、早川（高校9回生）、八本（高校11回生）、故・渡辺（高校11回生）、故・中林（高校11回生）の諸君でした。美術部はデッサンが主流です。他校に劣らない石膏がありました。ビーナスの半身像をはじめブルータス、アポロ、セネカ、ラオコーン、少年立像などと作品が豊富でした。

当時、デッサンは落合先輩に指導



美術部部室にて。前列右端が私

を仰ぎました。キャンパスに木炭を描き、食パンを丸めて消しゴムにしてみました。腹がすいてパンの耳をかじった仲間達とはいまもお交流が続いています。20年ぐらいい前から再会するようになりました。浦和の原国先生宅のアトリエに集合し、花火大会を楽しみながら、旧交を温めていました。



サロンドポワン展会場にて原国先生と。前列右端が私

その頃から渡辺君が所属していた「サロンドポワン展」に美術部OBが集うようになったのです。有楽町の交通会館2階が恒例の会場です。年に1回、3月に1週間開かれる展示会が美術部OBの茶話会の場となっています。

前後しますが、美術部は文化祭や運動会では、各部への呼びかけがあつて皆で協力したものです。校門

の飾り付けやアーチは美術部の特技でした。運動会では各部対抗リレーがあつて参加しました。仮装行列に突然出る事になり石渡君（高校9回生）と弥次喜多珍道中を演じました。一方で芥川君（高校9回生）は茶髪にしてハローリーを持ち込み、ジェームス・デーンの仮装でした。雲泥の差とはこんなものでしょう。

美術部員はこぞつてまじめな人が多く、坊主頭で学生服の左胸のポケットに万年筆を入れる、一見ガリ勉スタイルの生徒ばかりでした。

石渡君、白川君、阿部君は学校を離れても、たびたび実家に遊びに来てくれました。実家の近くに荒川があり、魚釣りや水泳を楽しんだものです。白川君は十文字学園に行つていた妹に熱を上げていて、妹の追っかけをばからずにやっていました。

当時の美術部員は、落合先輩にいろいろとお世話になりました。部活動だけでなく映画や美術鑑賞などもみんな連れて行つてもらいました。

時は巡り昨年1月に、OBを引率していた渡辺君が逝去され、今後



運動会の各部対抗に出場。右端が私

どのようなのか心配しており、原国先生も逝去され、落合先輩も高齢になり困惑しています。私も視力障害と胸部のガンでなかなか引率できる状況にないのが残念です。毎年、本郷の学園祭には出席しておりますが、美術部の存在がない事は無念の一語です。一昨年の学園祭では応援団の諸君に混じつて昔の応援歌をひろうしました。

染井の森にそびえ建つ

白い校舎に胸躍る

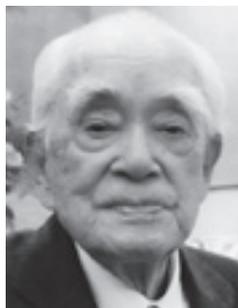
若き僕等は未来のホープ

励め我等の熱と意気

フレーフレー本郷若人よ

復活して、と言いたい応援歌です。傘寿を記念して記述しました。

本郷の先輩たち



笹岡 武徳 さん
1934年=昭和9年卒業
中学7回生

傑人 仕事を愛する102歳の発明家

1916年(大正5年)11月広島県生まれ。

1934年(昭和9年)本郷中学校卒業。

1938年(昭和13年)早稲田大学理工学部卒業。

1948年(昭和23年)笹岡製作所(現株式会社笹岡工業)創業。

1988年(昭和63年)江戸川区優良工場として表彰を受ける。

1989年(平成元年)東京発明展にて国務大臣科学技術庁長官賞受賞。

2004年(平成16年)

2007年(平成19年)江戸川区芸

能文化協会会長。

2016年(平成28年)江戸川区文化功績賞受賞。

2017年(平成29年)厚生労働省ホームページ「地域で話題の高齢者」にて紹介される。フジテレビ「めざましテレビ」『100歳越え長生きの秘密』に出演。

2018年(平成30年)BS朝日「日曜スクープ」『100歳越え健康長寿の秘密』に出演。

趣味 尺八(公益社団法人日本尺八連盟竹帥大師範)・書道

本人からのコメント

本郷中学校当時は、教練や体操が盛んでした。それが現在の健康維持に役立っていると思います。

永井道明教頭から「やれば出来る、やらなければ出来ない、やりすぎればまた出来ない」と云われました。ことが、今でも思い出されます。



山内 英夫 さん
1951年=昭和26年卒業
高校3回生

元国鉄(現JR)四国総局長

1933年(昭和8年)東京都生まれ。

本郷高校卒業後一浪して、東京大学文一に合格、法学部に進み卒業後国鉄(現JR)に入社。

名古屋鉄道管理局総務部長、新幹線支社総務部長を経て四国総局長に就任、四国の鉄道・船舶・自動車・車両工場等の国鉄機関を統括管理する職務に就く。

当時の国鉄は慢性的な赤字体質で、赤字減少対策に明け暮れたものの、高速道路網の整備と過疎化の流れには抗するすべもなく、やがて国鉄は分割・民営化の道をたどることとなった。

1983年(昭和58年)国鉄を退

社、国鉄関連会社数社の役員を経たのち、1990年(平成2年)横浜ステーションビル(株)代表取締役副社長に就任、ファッションビルの経営にあたった。

1998年(平成10年)同社を退任、現役を引退し、現在にいたっている。

2004年(平成16年)より2010年(平成22年)まで同窓会会長を務めさせてもらった。

国鉄時代最も印象深い仕事は、現在JR各社の大黒柱になっている新幹線の草創期、東海道新幹線の建設、運営に深く関わったことである。

建設当初は、新幹線経理課総括補佐として工事予算を差配、不足する予算をやり繰りして、なんとか東京オリンピックに間に合うように開業にこぎつけたが、連日深夜に及ぶ厳しい、しかし充実した毎日が今となっては懐かしい思い出となっている。

開業5年目の岡山延伸時には新幹線支社総務部長として、開業10年目の博多延伸時には、総局次長として東海道で経験を積んだ保守の基幹要員を西に移動させるための厳しい労

使交渉をかさねた。無事配置転換が進み、延伸開業日を迎えた時の安んじ感も忘れられない事案であった。

学園時代の思い出

1945年(昭和20年)の東京空襲で被災し、疎開していたが、東京に戻り本郷中学(旧制)に転入したのは3年生の2学期。極端に物資が不足していた当時は、教科書さえ不足し、年度途中の転入生には手に入らず、いくつかの学科は教科書無しで1学期過ごした。

日常は隣の人に見せてもらっていたが、困ったのは試験の時、授業の時のノートだけが頼りであったが、結果は我が生涯最悪というほろ苦しい出が残っている。

ちなみにこの年6・3・3制の導入による学制改革が行われ、我々は3年制の本郷中学第1回の卒業生、本郷高校初めての入学生となった。

戦災にあった校舎は床もコンクリートむき出しの仮設教室で寒々としていたが、唯一焼け残った旧永井体育館は都内でも有数の設備を備えていたため、練習場所を求めて旧文理

大(現筑波大)OBの体操クラブのスワロークラブや早稲田大学のバスケット部が練習に来ていた。(ちなみにスワロークラブには後のオリンピックメダリストで一時本郷学園の体育の先生も務めた竹本正男、上迫忠夫両氏もおられ、その練習風景を間近で見られた。)

転校生でまだ友達のいなかった私は体育館にしばしば見学に訪れているうちに、同級生から勧誘されバスケット部に入部したが戦時中敵性スポーツとして禁止されていたバスケットは、指導者は勿論若手のOBもいないという状況であった。伝を頼って、時折外部の指導者に指導や助言をもとめたものの、主に指導書を頼りに自分たちで練習メニューを組み上げたものである。部員も7〜8人でチームプレイの練習は出来なかった。

体育館所狭しと練習に励む最近の生徒の姿を見るにつけ、本郷バスケット部復活の種を撒いた1人として感慨深いものがある。

本郷の先輩たち



小林 咸一 さん
1964年=昭和39年卒業
高校16回生

弁護士。

出会い

1940年(昭和15年)2月2日生まれ。1945年(昭和20年)頃、股関節カリエスを患い、以降、療養に専念すると共に、歌を作ることので気分をまぎらわせていました。

20歳になった頃、私が作った作曲の作品が、ビクター音楽学院の先生に認められ、東京に来ることを勧められ、熊本を離れ上京しました。そんなある日、歌を作っていた仲間に、「小林は中卒か」と言われ、高等学校へ行くことを決意しました。下宿していた叔母に「本郷高校という良い学校がある」と勧められ、さっそく本郷高校を訪れました。幸いに理事長の松平頼明先生がおられ、私は

「20歳を過ぎていますが高校に行きたい」と訴えました。松平先生は「何歳であっても勉強したいのであれば本郷に来なさい」と言ってくださり、入学することが出来ました。松平頼明先生との出会いが、私の人生を大きく変えることになりました。

本郷高校卒業後、早稲田大学に入学し、4年間、当時存在した医学部コースと法学部コースで学びました。卒業が近づいた頃、私の親族が「医者になったら咸一は長生きできないので、弁護士になれ」と言ってきました。そこで第一法学部を卒業し、司法試験を受けたところ、幸いにも合格し弁護士になりました。

弁護士になった後も、松平頼明先生ならどう言われるかを考え、常に他人の立場を考慮して生きることが、弁護士としての信条であり、信念です。

期待と感謝

本郷高校に入学した時、私の同級生は私より10歳以上も若い子供達でした。誰もが将来のある身ですので

頑張ってくれ、と親御さんのような思いで机を並べていたことが、懐かしく思い出されます。

私は身体障害者なので、医者になつて病気で苦しんでいる人達を助けたい、との思いもあつたので、現在、本郷生が全国の医学部に合格していることを大変喜んでいきます。

彼らはきつと私の出来なかつたことをやつてくれると期待しています。是非とも、志を持った医師として、社会のために頑張ってくれることを切に希望しています。

本郷学園の教育レベルの向上や大卒受験の好成績が、マスコミでもしばしば話題になっており、嬉しい限りです。

それもこれも、先生方のご指導の賜である、と感謝しております。その先生方のご努力が並大抵でないことは十分推察されます。心より御礼申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございます。



榎本 洋二 さん
1974年=昭和49年卒業
高校26回生

陶芸家

1955年(昭和30年)東京都生まれ。

1983年(昭和58年)東京藝術大学大学院研究科陶芸専攻修了。

1986年(昭和61年)日本伝統工芸展初入選。

1988年(昭和63年)丸沼芸術の森内に窯窯。

個展

日本橋三越本店、池袋三越、札幌三越、新宿京王百貨店、米子天満屋、銀座工芸いま

受賞歴

安宅賞、福島県美術賞、会津若松市長賞

日本工芸会正会員。埼玉県美術家協会会員。丸沼陶芸倶楽部 主任

埼玉県立大学非常勤講師。

丸沼芸術の森で制作を始めて以来、身近で親しみ易い自然のモチーフをテーマに見る人の気持ちを和ませる事のできる様な作品作りに取り組んでいる。

主に、鉄絵付けの陶器の製作が中心で、一見オーソドックスなものの中にどれ程の斬新な表現が盛り込めるか、その可能性に日々、挑戦している。

本人からのコメント

本来、高校進学は都立高校が第一志望でした。試験当日にインフルエンザに感染し、40度以上の高熱で、見事受験に失敗。

私立高校は本郷高校一校のみの受験でしたので、そのまま本郷に入学。

本郷高校を卒業して浪人の後、東京藝術大学美術学科工芸科に入学しました。

合格した年の入試試験の面接で、一人の教授から「本郷から藝大に来る者が、居ないな」と一言。

本郷の大先輩の彫金研究室の「田中勇先生」でした。

現在まで幾人かの本郷卒業生との出会いが有り、皆さん世の中で、或いは世界的にも活躍されて居られます。その度に、同じ本郷の卒業生としての誇りを強く感じる次第です。



古澤 優 さん
1978年=昭和53年卒業
高校30回生

漫画家。

1960年(昭和35年)生まれ。埼玉県出身。

会社員を経て、1983年(昭和58年)「ヤングオート」(自動車雑誌)掲載の『たいまんぶるーす』でデビューする。

作品は暴走族漫画が多い。また、Jリーグチーム浦和レッズの熱烈ファンであり、浦和レッズを題材にした『赤菱のイレブン』という4コマ漫

本郷の先輩たち

画を描いてレッドサポーターにも人気がある。

現在は週刊ゴルフダイジェストにて、ゴルフ漫画「オーイー!とんぼ」連載中。

松山英樹選手を始め、多くのゴルフアーからも支持を集める。

学園時代の思い出

在学当時、担任だった関口彰元先生に進路や個人的な問題についても、親身に相談に乗っていただきました。会社員から漫画家に転職する際にも、先生が背中を押してくださったこと、今でもとても感謝しております。

在学当時はデザイン科があつて、先輩や後輩の画力に普通科の私は、シヨックを受けたこと、今でも忘れません。

でもそんな私も漫画家になって、今年でちょうど35周年を迎えることが出来ました。

今でも先生や当時のクラスメイト、同級生、先輩、後輩とも交流があり、かけがいのない私の人生の師であり友であります。



今井 知己 さん

1979年=昭和54年卒業
高校31回生

デザイナー

1961年(昭和36年)東京都足立区生まれ。株式会社スタジオジブリ商品企画部 部長。

1979年(昭和54年)本郷高校デザイン科卒業。

卒業後、東京宣伝美術社にて映画看板職人を目指す。

1982年(昭和57年)〜東京ディズニーランド「イツツアスモールワールド」壁画、造形物の彩色仕事。

1983年(昭和58年)、株式会社エンスカイ転職。

キャラクター玩具、アイドルグッズ等の企画、デザインを担当。

1992年(平成4年)、株式会社徳間ジャパン転職。ジブリ作品のグッズ企画担当。

1994年(平成6年)、アニメーション

ン製作会社…スタジオジブリへ転職。宮崎駿監督、鈴木敏夫プロデューサーの下、ジブリ作品のキャラクターグッズ、企画デザインと管理を担当し今に至る。

本人からのコメント

幼少期から暇さえあれば漫画、落書き遊びの毎日。

本郷高等学校にデザイン科があるのを知り、熱烈志望し入学。

男子校、同級生は似たような変人ばかりで楽しい学園生活を送る。

絵の上手い奴、器用な奴、上には上がいるのを知る。

担任の小沢稔先生に3年間、デザインの基礎を教わり、スキー部にも3年間所属し、三好修先生やOB、先輩、後輩達との合宿で人との思いやり、人間関係の大切さを実感。

15〜18歳という多感な成長期に本郷デザイン科に通ったことが、その後の人生と今があると実感しています。「好きこそ物の上手なれ。」大変で苦しい事も自分で段取りをつけ、逆に気持では楽しみながらこなす。

そうすれば沢山の笑顔に触れられると思っ



浅野 良太 さん
1998年=平成10年卒業
高校50回生

元ラグビー日本代表 主将

國學院大學栃木学園教諭。

1979年(昭和54年)9月生まれ。

学歴

1998年(平成10年)本郷高校卒業し、法政大学経済学部に入學。

職歴

2002年(平成14年)日本電気(株)入社、2014年(平成26年)日本電気(株)3月退社

2014年(平成26年)4月國學院大學栃木学園入職(保健体育科教諭)

ラグビー歴

【NEC(日本電気)】

2002年(平成14年)・2004年(平成16年)・2005年(平成17年)日本選手権優勝

2003年(平成15年)マイクロナフトカップ優勝

2005年(平成17年)

2009年(平成21年)・2013年・2014年主将

【日本代表】

日本代表キャップ22 ※キャップとは国同士の対戦時に与えられる

2002年(平成14年)7人制日本代表2003年(平成15年)ワールドカップオーストラリア大会出場

2005年(平成17年)日本代表

主将2007年(平成19年)ワールドカップフランス大会 出場

【海外代表】

2009年(平成21年)New Zealand Counties Manukau 代表(州選手権出場)

ラグビー指導歴

2017年(平成29年)

2018年U17(17歳以下)日本代表監督

日中韓ジュニア交流競技大会優勝

2014年(平成26年)國學院大學栃木高等学校ラグビー部ヘッドコーチ

(主な最高戦績)

2014年(平成26年)全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会3位

2015年(平成27年)全国高等学校ラグビーフットボール大会ベスト16

2017年(平成29年)全国選抜女子7人制ラグビーフットボール大会優勝

女子オッペンカップ優勝、女子立正大カップ優勝

2018年(平成30年)全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会3位

本人からのコメント

私が社会で生き抜いていくうえで
の武器はマネジメント能力と行動力
です。

その基礎を作ってくれたのは本郷高校で出会った仲間と先生方でした。

勉強や学校行事、そして部活動など多くの学びの中で自分を磨き、それを親身になり、支えてくださる先生方を大切に、社会で耀く人材となることを期待しています。

一生勉強・一生青春。

染井能舞台物語3... 戦後の能楽再興に貢献し多数の能楽師を輩出、映画の舞台にもなった

戦後に脚光を浴び著名な能楽師を数々輩出した

染井能楽堂は、関東大震災と第二次世界大戦の空襲にも耐え、東京都内に僅かに残る交通至便な能楽堂として脚光を浴びた。戦後最初の能会が催されたのも染井能楽堂で、能楽の各流派が自前の能楽堂を再興するまでの間、数多くの能会がここで開催された。また、文部省の能楽後継者の養成所として重要な舞台となった。その時期に巣立った本郷の卒業生から、著名な能楽師を数々輩出することとなった。

- 旧制中学6回 青木 豊 観世流シテ方
生.. 大正5年(1916) 没.. 平成元年(1989)
- 旧制中学13回 渡部 栄嗣 葛野流大鼓方
生.. 大正11年(1922) 没.. 昭和59年(1984)
- 高校7回 平井 和夫 平井 俊行 観世流シテ方
生.. 昭和11年(1936) 没.. 平成18年(2006)
- 高校9回 鶴澤 速雄 大倉流小鼓方
生.. 昭和13年(1939) 没.. 平成18年(2006)
- 高校10回 亀井 俊一 幸流小鼓方
生.. 昭和14年(1939)
- 高校10回 寺井 三千丸 寺井 久八郎 森田流笛方
生.. 昭和14年(1939)
- 高校11回 一噌 仙幸 一噌流笛方
生.. 昭和15年(1940) 没.. 平成30年(2018)
- 高校11回 鶴澤 郁雄 観世流シテ方
生.. 昭和15年(1940)
- 高校12回 亀井 忠雄 葛野流大鼓方
生.. 昭和16年(1941)
- 高校12回 幸立 夫 幸 正悟 幸流小鼓方、十八世宗家
生.. 昭和16年(1941) 没.. 平成26年(2014)
- 高校12回 寺井 良雄 宝生流シテ方
生.. 昭和16年(1941) 没.. 平成22年(2010)
- 高校14回 昭和37年(1962) 亀井 保男 宝生流シテ方
生.. 昭和19年(1944)
- 高校48回 小寺 真佐人 観世流太鼓方
生.. 昭和52年(1977)

昭和31年(1956)7月4日発行 本郷学園新聞 第40号 4面
「すぐれた日本の古典 能楽への手引 ふかい本校とのつながり」

(昭和31年6月21日、母校講堂にて本郷学園能楽研究クラブ発表会を開催したときの記事)



「毎週3日ずつ染井能楽堂で文部省の文化財保護委員会による養成を受けているほか、お父さんや他の先生についてきびしい修行を続けている」

小津安二郎の映画『晩春』に

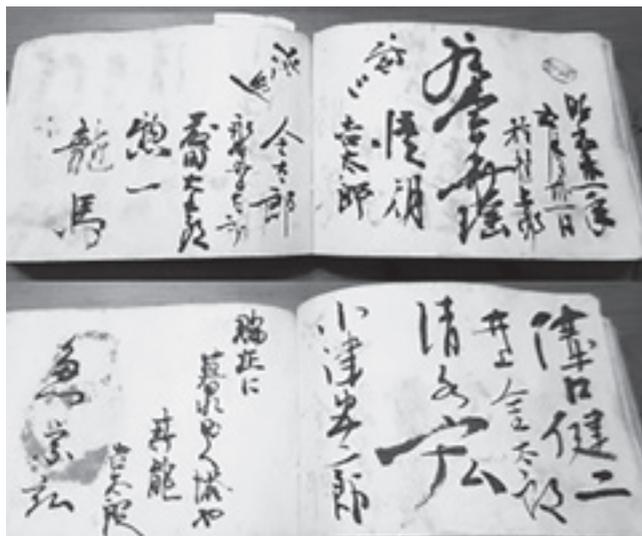
■原作「父と娘」は、小説家・文芸評論家・翻訳家の広津和郎（1891年「明治24年」～1968年「昭和43年」）が、1939年「昭和14年」に雑誌に発表した短編。

■映画「晩春」は、映画監督の小津安二郎（1903年「明治36年」～1963年「昭和38年」）が、仲間の清水宏から原作を勧められ読むうちに原作とは全く異なる物語を着想し、脚本家の野田高梧と脚本を完成させて映画化し、1949年「昭和24年」に封切られた。登場人物は大学教授の曾宮周吉と愛娘の紀子とし、再婚をほのめかして、結婚に踏み切らせる点は同じだが、原作では父の心理描写を中心に軽快な表現に終始しているのに対し、映画では娘の心理描写にも重点を置く。

■原作にはないお能見物の場面では、染井能楽堂が出演者の俳優や能楽師とともに映る。目礼した未亡人の三輪秋子が父の再婚相手だと誤解した紀子が、心をかき乱される場面は、伊勢物語に着想を得た能「杜若」の謡と舞と囃子が効果的に使われている。能の演目に「杜若」を勧めたのは、当時、染井能楽堂の管理を任されていた能楽師の金春惣右衛門である。

■小津は映画製作の傍らで染井能楽堂に能楽鑑賞に訪れており、断片的に残された期間の日記には、映画化の前と後で少なくとも3回、染井に足を運んでいるのが分かる。

■小津作品は会話の中から生まれたといわれるほど、日ごろの交流を通して映画のアイデアを仲間から得ている。その中には能楽師との交流があった。その一人、亀井俊雄が遺した雑記帳には、交流の証となる数々の署名があり、そこに小津の名前もある。



写真：1951年〔昭和26年〕5月31日-鎌倉村上邸薪能における、出席者の署名（亀井俊雄長男で能楽師、本郷高校の卒業生でもある亀井俊一氏より提供）

同期の輪

2016年 平成28年卒業（高校68回生）

はたちの集い

近藤 誠

昨年の5月19日土曜日、高校68回生のはたちの集いが開催されました。前回までは、成人の集いとして開催されていましたが、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられることを受けて、今回は記念すべき第1回目のはたちの集いとして開催されました。

卒業式以来これだけの人数が一堂に会する機会というのはなく、個人的には楽しみに思う気持ちと同時にどこか緊張していました。当日は少しだけ高校にもお邪魔させていただきましたから会場に向かいましたが、開会のあいさつを

無事に済ませ同級生の輪に入ると、本郷での思い出話に花が咲きました。中には2年ぶりに会うような同級生もおり、進路の話などは興味深く聞くことができました。

このように話をしていると、何とも言えない安心感のようなものを抱きました。2年会っていないとしても、そうとは思わせない距離感で自然に会話に入っていくことができました。お世話になった先生方にもお会いすることができ懐かしさを感じていると、やはりこの6年間で自分に与えてくれた影響の大きさを実感します。また10年後に「30歳の集い」があるとお聞きしました。どんな30歳になっているのか想像もつきませんが、今から楽しみです。

最後になりますがこの場をお借りして、まずはともに準備してくれた実行委員の同期に深く感謝



します。そして、今回の私たちの集い開催に向け尽力してください、我々にこのような場を設けてくださった理事長先生や校長先生、恩師の先生方をはじめとする学校関係の皆様、同窓会の諸先輩方に厚く御礼申し上げます。

30歳の集い

2006年≡平成18年卒業（高校58回生）

藤田 宗弘

昨年の5月14日、我々高校58回生の30歳の集いが行われました。卒業から2年後の成人の集い以来10年ぶりの公式行事となりましたが、約30名ものメンバーが集いました。

私は今回の幹事を引き受けたとはいえ、卒業から12年も経過しているわけですから、「顔と名前が一致しなかったらどうしよう」「誰も私のことを覚えていなかったら…」などと不安ばかりが先行しました

が、いざ始まってしまえばそこは12年前と同じ雰囲気包まれ、本郷生らしい、和気あいあいと笑顔あふれる空間となりました。変わったのはそれぞれがそれぞれの道で汗を流し日々働いていること、そして右手に持つコップの中身がお茶からビールになったことだけ、でしょうか。あつと言う間の数時間、その後有志メンバーは巣鴨駅のアーケード街にある居酒屋で二次会を行いました。（聞くところに依ると、さらにもう1軒で酒を酌み交わしたメンバーもいるとかいらないとか…）。

月日は流れてもすぐに当時を思い出して打ち解け合えるこの集いは、参加した各々にとってまた明日からの活力となったことと思えます。会の終わりには「10年後と言わず、また集いましょう!」とフェイスブックでグループを立ち上げました。本稿をご覧の58回生のみなさま、ぜひ私の名前で検索の上、

申請をいただけたら幸いです。最後に申し上げます。

最後になりますが、この場をお借りして、同窓会の諸先輩方、理事長先生、校長先生、恩師をはじめ



め学校関係の方々に深く感謝を申し上げます。次回は先生方もご一緒していただき、盛大に行いましょう！

1976年Ⅱ昭和51年卒業（高校28回生）
還暦の集い

岡野 智彦

この度、幹事を仰せつかり平成30年4月14日の土曜日に高校28回生の「還暦の集い」を開催いたしました。当日は本郷高校巢鴨門に午後1時集合。定刻には参加者20名が揃い、懐かしい顔、面影はあるが名前が思い出せえずにいる時、同じスキー部だったもう一人の幹事の神谷君が準備してくれた高校時代の顔写真が入った名札を付けて、学園内の見学からスタート。本郷高校OBで現役教師の野村教諭の案内で、先ずはすっかり様変わりした人工芝のグランドと機械科の実習室や柔道

場があった現在の4、5号館の脇を歩いてデザイン科があった現在の2号館へ。最後に1号館へ移動して約50分の見学ツアーが終了しました。

その後、学園隣りの三菱養和会スポーツセンター内のレストラン・パルテールで「還暦の集い」が始まり、会場に入ると恩師の田村先生、大宮先生、阿出川先生の三名が席にお着きになり、恩師を囲んでまずは自己紹介と近況報告から始まり、42年ぶりの再会に話も弾んで、予定していた二時間は瞬く間に過ぎていきました。盛会のうちにお開きの時が近づいてきた頃、同窓会の理事を数名、選出させていただき、恩師三名に記念品を贈呈して散会となりました。次回の同期会での再会を約束した「還暦の集い」は人生の新たな思い出の1ページとして深く心に残りました。

結びに、この場をお借りして、開催のための準備を進めてくれた幹事の神谷君、同窓会の諸先輩方に感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございます。



1960年 昭和35年卒業（高校12回生）
高12回同期会

江原 稔

今年には本郷高校同窓会の懇親会（昨年6月16日）に出席とのことで、巢鴨駅に集合したが、多少時間があり母校を見学することになった。58年振りに見る母校には、我々の時代の校舎、グラウンド等全て面影が無く、年月の過ぎ去る早さを肌で感じた。

人工芝のグラウンドではラグビー、サッカー等のクラブ活動の生徒達が元気溼漑と動き回っていて、我々を見ると大きな元気な声で「コンニチワ」と礼儀正しく挨拶する姿は、我々の時代には無かった。『本郷の学び』のなかに「しつけ指導の徹底」とあり、生徒の「礼儀を身につける」教育が実践されていることに感銘する。

正門からの「银杏並木」が半分になり、大分短くなっているのを淋

しく感じ乍ら中学、高校と6年間通った「正門」の前で記念写真を撮った。門前の「蕎麦や」だけが昔のまま営業していたのには全員が驚き、本郷時代の懐かしい思い出にたどり着いた。

時間が来たので懇親会の会場「養和会」へ。我々12名がまとまっ



てテーブルを囲んで席を取っていると、先輩諸氏と後輩の皆様が、同期のまとまりの良さに羨望のまなざしで語りかけてきた。これも田嶋君と市倉君、熊木君の熱意があつて大勢が参加したと思う。終了後は有志で巢鴨駅前のスナックに立ち寄りカラオケで盛り上げ、三々五々家路に向かう。「喜寿」を迎えたこの年、楽しく感動した二日を過ごした今日を忘れることは無い。感謝です。

1961年 昭和36年卒業（高校13回生）
高13回同期会

齋藤 毅

昭和36年卒業生（高校13回）の集まりです。今年が集まりが少なく6名でした。欠席者は入院や高齢のため体調を壊したり遠方への外出が困難であったりで、それも仕方なく現在は皆「後期高齢者」になりました。しかし私たちより



ご高齢の先輩はお元気な方々がたくさんおられます。お元気な諸先輩に比べ我々もつと頑張るような会話があり、また年齢相応の体力を維持しつつ元気に毎日を過ごそうという話を中心でした。もちろん高校生時代のお世話になった諸先生や仲間の話もたくさんあり、

更に終活の話も出てなかなか難しい話題等もありました。今後も仲間同士電話等で連絡取り合いながら三々五々集まり情報交換を含め友情を深めていこうという話で散会しました。

1968年 昭和43年卒業(高校20回生)

郷士会 古稀の集い

関塚 正治

郷士会は平成20年11月還暦の集いを開催するために発足し、はや10年の歳月が経過しました。還暦の集い以降、毎年6月の総会と懇親会、さらに隅田川花火大会、学園文化祭パーティーへの参加、春秋の二泊旅行会と、盛りだくさんの集まりを行ってまいりました。

平成30年7月7日、数え年70歳を迎えるにあたり、赤坂の赤坂茶寮において古稀の集いを、恩師3名の出席を頂き開催いたしました。人生70年古き事稀なり ㊦と唐の



詩人の杜甫は詠んだそうですが、人生1000年時代、13000年前とは様変わり。まだまだ老人とは思えないメンバーですが、話題はやはり自身の健康問題が一番のようです。予定の時間の3時間もあつて散会しました。

第六回本郷医師の会

本郷医師の会幹事長
杉下 和行1996年11月平成8年卒業
(高校48回生)

第六回本郷医師の会を平成30年11月17日に新宿区内で開催致しました。今回も昨年に引き続き会議室での立食形式での本郷医師の会の親睦会となりました。参加者数は前回とほぼ同等でしたが、医学生の新参加者が増えました。例年通り本郷医師の会会長の岡本先生よりご挨拶をいただき、親睦会が始まりました。

歓談後、しばらくしてから全員から近況報告をしていただきました。卒業年が新しい医学生の方々からお話をしていただきました。皆さん将来に向けて色々な話を聞きたい、と目を輝かせていました。岡本先生からは特に医学生に向けて「体力的に厳しい診療科の方が未来がある」というお話がありました。例年に比べて医師と医学生との交流が多かったと思います。

実は、会の開始時間になっても診療が続いていらつしゃった先生がお二人いらつしゃいましたが、診療が終わるとすぐに一時間以上もかけて駆けつけてくださいました。最年長者の先生から「花園に出席が決まった本郷高校ラクビー部を応援しよう」という愛校心のあるご挨拶をいただき、集合写真の撮影の後に解散となりました。

令和元年11月30日土曜日に第七回本郷医師の会を開催致しますので、この記事を読まれた医師あるいは医学生の方は是非ご参加下さい。「本郷医師の会」で検索していただくのと本郷医師の会のホームページが表示されます。そこに連絡先が記載されておりますのでご連絡いただけますたら幸いです。

銀友で繰り返し案内をさせていただきますましたお蔭で本郷医師の会の

メンバーも50名を越え大所帯になりつつあります。同窓会の皆様にお礼を申し上げたいと思います。



会員相互の意見と親睦

● 定期総会開催日 日時：6月15日(土)15時。会場：母校1号館2階会議室

● 総会後の会員懇親会開催日 日時：6月15(土)17時。会費 3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 理事会開催日 日時：4月20日(土)15時、10月19日(土)15時。会場：いずれも母校1号館2階会議室

● 理事懇親会開催日 日時：4月20日(土)17時、10月19日(土)17時。会費：いずれも3,000円。会場：いずれも三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 「はたちの集い」(第12回)。2017年平成29年3月卒業生へ高校69回生V対象)開催日 日時：5月18日(土)14時半。会費 1,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室(ブース)開設日 9月21日(土)、22日(日)

● 還暦・30歳の集いなど同期会の開催支援

会誌の発行

● 「銀友」48号 発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

母校の後援

● 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰

● 卒業生全員に記念品贈呈

会員名簿の整理

● 同窓会会員名簿の管理とそれにもなう会員の住所変更登録。会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用原稿作成など必要な各種事務処理に業者に委託

ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新。既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載。住所変更受け付け、同期会等の開催

告知・報告掲載など

その他の事業

● 学園教職員との懇親会開催

● 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会の運営

● 運営委員会開催日時：4月20日(土)13時、5月18日(土)12時、6月15(土)13時、7月20日(土)15時、9月7日(土)15時、10月19日(土)13時、11月16(土)15時、12月21日(土)15時、1月18日(土)15時、2月15日(土)15時、3月21日(土)15時。会場：いずれも母校4号館会議室

● 「はたちの集い」(第13回)。2018年平成30年3月卒業生へ高校70回生V対象)実行委員会開催日 日時：2月15日(土)13時。会場：母校4号館会議室

● 「はたちの集い」(第15回)。2020年令和2年3月卒業

業生へ高校72回生V対象)
実行委員会結成…3月4日
(水)正午。母校会議室

— 同窓会からのお願い —

年会費納入にご協力ください

一口：2,000円以上

同窓会の運営はすべて皆様の会費で行っております。ぜひともご協力ください。

振込取扱票を同封しております。

インターネットバンキングを含む銀行振り込みも可能です。その際は会員番号(振込取扱票に印字してあるお名前)の下の8桁の数字)か、氏名と卒業年(昭和はS、平成はHと表記してください)のどちらかを明記してください。

銀行口座…

三菱UFJ銀行駒込支店
普通口座0821142
本郷学園同窓会

2019年度収支予算案
2019年4月1日～2020年3月31日

(単位：円)

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	3,060,820	総会(1回)、理事会(2回)開催	500,000
新卒者同窓会入会金	3,000,000	資料作成費	150,000
同窓会年会費	2,200,000	懇親会費	350,000
はたちの集い	400,000	会誌発行費(15,000部)	2,900,000
会費	150,000	銀友制作費	
学校側負担金	250,000	宛名印刷費	
懇親会会費	300,000	ラッピング費	
理事会	150,000	発送費	
総会	150,000	編集諸経費	
雑収入	0	行事部門	2,050,000
		はたちの集い	700,000
		本郷祭同窓会出展費	250,000
		同窓会開催支援費(活性化)	100,000
		活躍した生徒への激励費	700,000
		卒業生記念品費	150,000
		学園懇親会費	150,000
		会員名簿保守管理費	200,000
		ホームページ年間契約料	70,000
		運営委員会交通費補助	200,000
		事務費	200,000
		備品費	
		消耗品費	
		資料作成費	
		通信費	
		雑費	
		支出合計	6,120,000
		次年度繰越金	2,840,820
合 計	8,960,820	合 計	8,960,820

会員相互の意見と親睦

● 定期総会開催Ⅱ日時：6月16日（土）15時。会場：母校1号館2階会議室

● 定期総会後の会員懇親会開催Ⅱ日時：6月16日（土）17時。参加者数：53人。会費：3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 理事会開催Ⅱ日時：4月21日（土）15時、10月20日（土）15時。会場：母校1号館2階会議室

● 理事会後の理事懇親会開催Ⅱ日時：4月21日（土）15時、参加者数：32人。日時：10月20日（土）15時、参加者数：23人。会費：いずれも3,000円。会場：いずれも三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● はたちの集い（旧成人の集いⅡ第11回。2016年Ⅱ平成28年3月卒業生ハ高校68回生V対象）開催Ⅱ日時：5月19日（土）14時半。参加者数：167人

（卒業生145人、理事長・校長・担任教諭など学園関係者8人、同窓会関係者14人）。会費：1,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 本郷祭（学園文化祭）同窓会展示室（ブース）開設Ⅱ開設日：9月15日（土）、16日（日）。会場：母校2号館教室

● 本郷祭同窓会懇親会（サロン）開催Ⅱ日時：9月16日（日）15時。参加者数：35人。会費：3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 会誌の発行
「銀友」47号Ⅱ発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

● 各校の後援
各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒140人（12件）を表彰

● 卒業生全員309人に記念品として印鑑を学園ならびに父母の会と共同で贈呈

会員名簿の整理

● 同窓会会員名簿の管理とそれにとまなう会員の住所変更登録。会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用の原稿作成など必要な各種事務処理Ⅱ業者に委託

ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新。既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載。住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など。

その他の事業

● 学園教職員との懇親会開催Ⅱ日時：11月28日（水）18時。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。同窓会より11人参加。学園側からは理事長、常務理事、校長、高・中教頭、母校OB教諭、事務職員が出席

● 入学・卒業式、体育祭に役員代表が出席、参観

会の運営

● 運営委員会開催Ⅱ日時：4

● 「はたちの集い」(第14回)
 2019年11月平成31年3月卒業生へ高校71回生V対象)実行委員会結成
 11日(土)13時、7月21日(土)15時、9月1日(土)15時、10月20日(土)13時、11月17日(土)15時、12月15日(土)15時、1月19日(土)15時、2月16日(土)15時、3月16日(土)15時。会場：いずれも母校4号館会議室

● 「はたちの集い」(第12回)
 2017年11月平成29年3月卒業生へ高校69回生V対象)実行委員会開催
 11日(土)13時、2月16日(土)13時。会場：母校会議室

2018年度収支決算報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

(単位：円)

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	3,788,390	総会(1回)、理事会(2回)開催	552,980
新卒者同窓会入会金	3,090,000	資料作成費	132,980
同窓会年会費	1,866,500	懇親会費	420,000
はたちの集い	454,060	会誌発行費(15,000部)	2,946,702
会費	167,000	銀友制作費	1,491,096
学園側負担金	287,060	宛名印刷費	126,376
本郷祭同窓会懇親会会費	105,000	ラッピング費	265,464
懇親会会費	324,000	発送費	1,002,758
理事会	165,000	編集諸経費	61,008
総会	159,000	行事部門	2,396,514
寄付	41,260	はたちの集い	700,930
中20回	30,000	本郷祭同窓会出席費	346,931
フェンシング部OB会	11,260	本郷祭同窓会懇親会費	137,600
雑収入	8	同期会開催支援費(活性化)	26,370
		活躍した生徒への激励費	910,000
		卒業生記念品費	154,500
		学園懇親会費	120,183
		会員名簿保守管理費	193,476
		ホームページ年間契約料	83,260
		運営委員会交通費補助	194,000
		事務費	241,466
		備品費	0
		消耗品費	26,869
		資料作成費(ラグビー部ポスター)	74,722
		通信費	47,445
		雑費	92,430
		支出合計	6,608,398
		次年度繰越金	3,060,820
合 計	9,669,218	合 計	9,669,218

預貯金・現金明細

(単位：円)

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱UFJ銀行	2,935,527	0	
郵貯銀行	95,841	0	
現金	29,452		
合 計	3,060,820	0	3,060,820

収入の部及び支出の部について、各科目ごとに伝票・領収書等の帳票類を精査したところ、それぞれ適正に誤りなく仕訳けされ、整理されていた。また、期末での現金残高及び金融機関への預金残高も相違なく確認した。したがって、2018年度の収支決算は公正かつ妥当なものであると認め、ここに報告する。

2019年4月16日 監事 木塚順夫 熊木宏治

2018年度定期総会報告

山際幸雄 1966年=昭和41年卒業 (高校18回生)

日時：2018年(平成30年)
6月16日(土)午後3時
会場：本郷学園1号館2階会議室
出席者：41人

立入健司運営委員(1974(昭和49)年卒業) 高校26回生)が司会を務め、定期総会の開会を告げる。

まず、南谷修同窓会会長(1956(昭和31)年卒業) 高校8回生)がいさつに立ち、はじめに本郷学園創立100周年(2022年)記念事業について、学園の実行委員会に協力して準備を進めたいと語った。次いで今年度の大学入学試験合格実績に触れ、東京大学17名(医学部特別推薦1名含む)、京都大学3名をはじめ国公立大学に92名が合格し、私立大学入試においても早稲田大学118名、慶応大学74名、各大学医学部に61名と高い水準を維持していることを伝え、支えてくださった先生方、学園関係者の努力に感謝した。その上で、各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒90名(13件)、吹奏楽部、応援委員会を表彰したことなど、昨年度の同窓会事業の概要を報告した。終わりに、同窓会

の活動に「皆さまのご理解を頂き、ご参加、ご協力をお願いしたい」と要望した。

また、佐久間昭浩校長が議事の途中、学園行事の合間を縫って駆けつけ、学園の近況や各分野で活躍する生徒たちの学園生活を紹介した。また生徒たちの大学進学状況にも触れ、最後に「さらに魅力ある学園にしていきたい」と決意を語った。

総会は、会則に基づき南谷会長が議長を務め、議事の開始を宣言し、書記に山際幸雄運営委員(1966(昭和41)年卒業) 高校18回生)、野口貴洋運営委員(1983(昭和58)年卒業) 高校35回生)、議事録署名名人に新澤米次運営委員(1956(昭和31)年卒業) 高校8回生)、千野邦雄運営委員(1973(昭和48)年卒業) 高校25回生)を指名した。

第1号議案

理事および監事選任の件

議長から同窓会理事および監事の任期(3年)が本定期総会終結をもって任期満了となるので、まず理事につき選任する旨を宣し、別紙総

会資料1頁「本郷学園同窓会役員(案)」「銀友」47号40頁掲載)に基づき、秋元幹夫副会長(1955(昭和30)年卒業) 高校7回生)に説明させた。理事候補者は、南谷修氏はじめ63名であるが、うち北野史浩氏(2013(平成25)年卒業) 高校65回生)につき記載欠落があるので、補充した上で議案とした旨の説明があった。

議長は全候補者につき、賛否を諮ったところ異議なく満場一致で承認可決された。なお、全候補者からは、あらかじめ就任承諾を得ている旨の説明があった。

次期会長については、先の理事会において南谷修氏が理事選任を条件として決議されているので、本決議に伴い引き続き就任する旨を述べた。

次に監事として木塚順夫(1956(昭和31)年卒業) 高校8回生)、熊木宏治(1960(昭和35)年卒業) 高校12回生)の2氏を選任したい旨の説明があった。議長は両氏につき賛否を諮ったところ、異議なく満場一致で承認可決された。両氏は直ちに就任を承諾した。

なお、副会長、運営委員等の役員について、別紙総会資料1頁の通り会長が委嘱した旨の報告があった。

第2号議案

2017年度事業報告の件

議長から第2号議案が提案され、別紙総会資料2頁「2017年度事業報告」（「銀友」47号35、36頁記載）に基づき、秋元副会長にその概要を報告させた。続いて、同窓会活性化担当の井上栄三郎副会長（1958（昭和33）年卒業）⇨高校10回生に「成人の集い」「還暦の集い」開催の支援について、また、「本郷祭」の同窓会展示について山際運営委員に報告させた。さらに同窓会誌「銀友」第46号発行について市倉洋一副会长（1960（昭和35）年卒業⇨高校12回生）、同窓会ホームページの管理について野口運営委員にそれぞれ説明させた。

第3号議案

2017年度収支決算報告の件

議長から、第3号議案が提案され、別紙総会資料6頁「2017年度収支決算報告書」（「銀友」47号36頁記載）に基づき、立入運営委員に報告させた。次いで、熊本監事

が、2017年度会計について、4月19日（木）に監査を行った結果、「2017年度の収支決算は公正かつ妥当である」と報告した。

ここで議長は第2号、第3号議案について質疑を受け、一括して賛否を諮ったところ、いずれも異議なく満場一致で承認可決された。

第4号議案

2018年度事業計画(案)の件

議長から、第4号議案が提案され、別紙総会資料7頁「2018年度事業計画(案)」（「銀友」47号33、34頁記載）に基づき、秋元副会長に概要を説明させた。さらに、同窓会の活性化事業について梶徳治運営委員（1968（昭和43）年卒業⇨高校20回生）、「本郷祭」同窓会展示について山際運営委員、同窓会誌「銀友」第47号発行について市倉副会長、ホームページの管理について野口運営委員にそれぞれ説明させた。

第5号議案

2018年度収支予算(案)の件

議長から、第5号議案が提案され、別紙総会資料8頁「2018年度収支予算案」（「銀友」47号34頁記載）に基づき、秋元副会長にその

概要を報告させ、詳細を立入運営委員が説明をした。

ここで議長は第4号、第5号議案について質疑を受け、一括して賛否を諮ったところ、いずれも異議なく満場一致で承認可決された。

このあと、出席者からの発言が懇談的であり、議長が閉会を宣言し、司会が総会の散会を告げた。

この議事を明確にするため、別紙総会資料を添付して本議事録を作成し、議長ならびに議事録署名人が下に署名する

2018年6月16日 本郷学園同窓会

議長 南谷 修

署名人 新澤 米次

署名人 千野 邦雄

2018年度表彰報告

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒140人(12件)を表彰

1. 「アジア・イノベーション・イノベーション」

チャレンジ2018(主催・Fedex(株)/公益社団法人ジュニア・アチーブメント・ジャパン)で1位となりブルネイ王国へのスタディツアーに招待される。「ブルネイ、タイランド、ミャンマーのいずれかの国を1つ選び、その国の社会的課題を解決するための商品またはサービスの市場参入戦略を立案せよ」との課題に対し「ブルネイにデング

熱を媒介する蚊を寄せ付けない効果のあるムスリム民族衣装(ヒジャブとアバヤ)を販売する」との提



2. 「ビジネス・アイデア

コンテスト/インターナショナル・トレード・チャレンジ2018(主催・Fedex(株)/公益社団法人ジュニア・アチーブメント・ジャパン)国内大会で1位となりアジア世界大会(シンガポール)に招待される。「パプアニューギニアにアウトドア製品を新規に販売する市場参入戦略を立案せよ」との課題に対し「パプアニューギニアの電力問題を解消する持ち運び

可能な太陽発電シート」の提案を英語で発表(入賞)西山知樹、佐々木健太郎



3. 第26回日・韓・中ジュニア交流競技会ラグビーフットボール競技に日本代表に選出され参加(入賞)校

第26回日・韓・中ジュニア交流競技会ラグビーフットボール競技に日本代表に選出され参加(入賞)校

第26回日・韓・中ジュニア交流競技会ラグビーフットボール競技に日本代表に選出され参加(入賞)校



4. 第57回東京都中学校総合体育大会陸上競技選手権大会の優勝に貢献(安藤晴輝、持田優輝)

第57回東京都中学校総合体育大会陸上競技選手権大会の優勝に貢献(安藤晴輝、持田優輝)



5. 第57回東京都中学校総合体育大会陸上競技選手権大会「共通4×100mリレー」で優勝(安藤晴輝、持田優輝、板垣心陽、吉野晃平、塩田海人、白井太生君)以上23人(5件)9月15日表彰

第57回東京都中学校総合体育大会陸上競技選手権大会「共通4×100mリレー」で優勝(安藤晴輝、持田優輝、板垣心陽、吉野晃平、塩田海人、白井太生、諏訪仁哉、城野哲郎、谷田光太郎、瀬谷敦紀、遠藤溪一郎、鈴木堅路君)



6. 第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会に、東京都第2地区予選で優勝し、出場。初戦敗退(部

第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会に、東京都第2地区予選で優勝し、出場。初戦敗退(部

員57人)
11月17日表彰



8

第7回東京都高等学校理
科研究発表会で優秀賞(地
学部門1位)を受け都代
表として7月開催の第43
回全国高

等学校総
合文化祭
自然科学
部門研究
発表に出
場決定(内
田晃樹、高
石文哉君)



10

ンを開発せよ」(八高校▽
西山知樹、
大田暉君、
中学▽杉山
裕紀君)以
上9人(3
件)1月19
日表彰



第15回日本物理学会
Jr.セクションに「ゴ
ム of 引く
力と伸び
の関係」の
研究題目
で出場(八
高校▽秋
吉翔太君
八中学▽
斎藤奏良、
岩田啓吾、
橘和遼、松
浦隆郎君)



12

八中学▽
笠井圭太、
堀田悠真、
高橋礼君)
以上9人
(2件)2
月16日表
彰



第20回全国高等学校ラグ
ビーフットボール選抜大
会に、東京都新人大会で

優勝し関
東新人大
会3位と
なり、出
場し予選
Gグルー
プ2勝1
敗で終わ
る(部員
42人)3
月16日表
彰



7

第13回「科学の芽」努力賞
を「コップから流れる水
の形」の研究
題目で
受賞(八
高校▽岡
野修平君
八中学▽
笠井圭太、
堀田悠真、
佐々木大
和君)



9

ソウル市で開催された日
韓シンガポールの中高生
によるビジネスアイデア
コンテスト「デジタル・
リーダーシップ・美・グ
ローバル・シテイソン」
(主催:ソウル市、ソウル・
デジタル財団、ジュニア・
アチーブメント韓国)決
勝大会で総合2位に。応
募テーマは「インターネッ
ト・テクノロジを用いた
障害者または何らかの
社会的弱者の問題を解決
する支援アプリケーショ

11

第15回日本物理学会
Jr.セクションに「コッ
プから流れる水の形」の
研究題目で出場し奨励賞
に(八高校▽岡野修平君

本郷学園同窓会役員(案)

任期：2021年度定期総会まで

○印は2019年度定期総会で承認を得る理事候補

役職	氏名	卒業年	卒業回期	役職	氏名	卒業年	卒業回期
名誉会長					宮沢正喜	1966 (昭和41)年	高校18
	松平頼昌	(学園理事長)			関塚正治	1968 (昭和43)年	高校20
会長・理事					内山正敏	1968 (昭和43)年	高校20
	南谷 修	1956 (昭和31)年	高校8		中田守喜	1969 (昭和44)年	高校21
副会長・理事					堀井貞夫	1969 (昭和44)年	高校21
	秋元幹夫	1955 (昭和30)年	高校7		染谷幸雄	1970 (昭和45)年	高校22
	小室能広	1956 (昭和31)年	高校8		砂泊照男	1971 (昭和46)年	高校23
	市倉洋一	1960 (昭和35)年	高校12		押田松晃	1971 (昭和46)年	高校23
	山際幸雄	1966 (昭和41)年	高校18		小堀義光	1971 (昭和46)年	高校23
監事					田中良一	1972 (昭和47)年	高校24
	木塚順夫	1956 (昭和31)年	高校8		中嶋健至	1973 (昭和48)年	高校25
	熊木宏治	1960 (昭和35)年	高校12		平野隆之	1974 (昭和49)年	高校26
顧問					鈴木利一	1975 (昭和50)年	高校27
	佐久間昭浩	(校長)			大蔵利文	1976 (昭和51)年	高校28
	山内英夫	1951 (昭和26)年	高校3		岡野智彦	1976 (昭和51)年	高校28
相談役					神谷秀行	1976 (昭和51)年	高校28
	宮本幸雄	1942 (昭和17)年	中学15		川俣 弘	1976 (昭和51)年	高校28
	玉川 昭	1945 (昭和20)年	中学19		馬島善宏	1976 (昭和51)年	高校28
	植松隆吉	1951 (昭和26)年	高校3		泉 昇一	1977 (昭和52)年	高校29
運営委員・理事					塚本雅一	1977 (昭和52)年	高校29
	新澤米次	1956 (昭和31)年	高校8		鶴坂宏文	1977 (昭和52)年	高校29
	井上栄三郎	1958 (昭和33)年	高校10		松本伸行	1980 (昭和55)年	高校32
	竹村義教	1960 (昭和35)年	高校12		清水一郎	1980 (昭和55)年	高校32
	梶 徳治	1968 (昭和43)年	高校20		竹野谷茂	1983 (昭和58)年	高校35
	赤井健郎	1970 (昭和45)年	高校22		岡本明久	1988 (昭和63)年	高校40
	野田悠二	1972 (昭和47)年	高校24		移川真男	1990 (平成2)年	高校42
	千野邦雄	1973 (昭和48)年	高校25		下村大樹	1993 (平成5)年	高校45
	石井聖一	1973 (昭和48)年	高校25		佐藤憲一	1993 (平成5)年	高校45
	立入健司	1974 (昭和49)年	高校26		野村竜太	1994 (平成6)年	高校46
	米澤 潤	1980 (昭和55)年	高校32		杉下和行	1996 (平成8)年	高校48
	野口貴洋	1983 (昭和58)年	高校35		薄井健吾	1997 (平成9)年	高校49
	小池武次	1983 (昭和58)年	高校35		池田貴生	2005 (平成17)年	高校57
	佐々木晋一	1985 (昭和60)年	高校37		宮川元	2005 (平成17)年	高校57
理事					○ 石川広明	2006 (平成18)年	高校58
	野木惣市	1945 (昭和20)年	中学19		○ 永瀬智也	2006 (平成18)年	高校58
	地曳秀雄	1951 (昭和26)年	高校3		關田宗範	2011 (平成23)年	高校63
	津久田愛之助	1954 (昭和29)年	高校6		北野史浩	2013 (平成25)年	高校65
	渡辺昭義	1954 (昭和29)年	高校6		田口雄飛	2013 (平成25)年	高校65
	岡本信也	1958 (昭和33)年	高校10		増本洋行	2015 (平成27)年	高校67
	久保國男	1960 (昭和35)年	高校12		○ 立花光陽	2017 (平成29)年	高校69
	高田隆義	1963 (昭和38)年	高校15		○ 伊藤瑞貴	2017 (平成29)年	高校69
	小倉義雄	1966 (昭和41)年	高校18		○ 畠中晃平	2017 (平成29)年	高校69

学園だより

本郷高校 2019 年春大学入学試験合格実績

大学名	計	現役
国立大学・大学校		
東京	5	4
京都	2	1
一橋	7	6
東京工業	9	5
北海道	7	3
東北	4	4
名古屋	1	
大阪	1	
筑波	2	1
千葉	8	6
埼玉	3	2
東京学芸	3	3
東京農工	4	3
東京医科歯科	2	1
首都大学東京	6	3
横浜国立	9	6
信州	2	1
弘前	1	
岩手	1	1
山形	1	
茨城	3	1
群馬	3	3
山梨	1	
新潟	1	
水産	1	1
看護	1	1
防衛	3	2
防衛医科	6	5

大学名	計	現役
私立大学		
早稲田	91	64
慶応義塾	77	53
上智	24	17
東京理科	127	101
明治	121	75
青山学院	21	13
立教	31	25
中央	35	20
法政	66	35
学習院	18	15
成蹊	1	
成城	12	6
明治学院	7	6
日本	67	36
専修	6	4
東洋	27	18
駒澤	15	7
獨協	3	1
國學院	4	2
武蔵	6	2
神奈川	13	10
玉川	3	1
大東文化	2	
東海	7	5
亜細亜	3	
帝京	7	3
国土館	2	1
拓殖	2	
東京経済	3	2
国際基督教	1	
東京都市	6	1
芝浦工業	91	48
麻布	5	4
桜美林	3	2
関西学院	3	3
関東学院	1	1
北里	9	9
杏林	4	3
近畿	3	2
工学院	12	7
国際医療福祉	2	1
産業能率	2	1

大学名	計	現役
私立大学		
城西	3	1
昭和	6	3
昭和薬科	1	
聖マリアンナ医科	2	1
大正	3	
高千穂	2	1
多摩美術	2	1
千葉工業	11	1
鶴見	3	2
東京医科	1	
東京工科	2	
東京歯科	1	
東京慈恵会医科	2	1
東京電機	20	13
東京農業	15	7
東京福祉	2	
東京未来	1	
同志社	2	2
東邦	4	3
獨協医科	3	2
日本医科	4	2
日本工業	1	1
日本獣医生命科学	1	1
日本薬科	1	1
文京学院	1	1
星薬科	1	1
武蔵野	2	1
武蔵野美術	1	
明治薬科	1	1
明星	1	
目白	1	
横浜薬科	1	1
立命館	15	10
岩手医科	2	1
愛知医科	1	1
金沢医科	1	
龍谷	1	
ビジネスブレクスルー	1	1
岡山理科	1	1
福岡	1	
日本社会事業	1	
常葉	3	

2018 年度退職教諭

社会科 廣岡 誠児 先生

(2019年4月5日現在)

本郷学園同窓会会則

《名称》

第一条

◆ 第二章 名称及び位置 ◆
 本会は本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条

本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号
 学校法人本郷学園内に置く。

◆ 第二章 目的 ◆

《目的》

第三条

本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかるこ
 とを目的とする。

《事業》

第四条

本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会誌の発行
- (2) 会誌の発行
- (3) 母校の後援
- (4) 会員名簿の整備管理
- (5) ホームページの管理
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

◆ 第三章 組織及び役員 ◆

《会員》

第五条

本会は次の会員により組織する。

- (1) 旧制本郷中学校及び本郷高等学校卒業生
- (2) 本郷中学校卒業生及び旧制本郷中学校並びに本郷高等
 学校に在籍したことのある者で理事会の承認を得た者

《役員》

第六条

本会には次の役員を置く。

会長 一名、副会長 若干名、理事 各任期若干名、監事 二名

《役員選出》

第七条

前条の役員は次の方法により定める。

- (1) 会長は理事会において理事の互選により選出する。
- (2) 副会長は理事の中から会長の委嘱によつて定める。
- (3) 理事は各任期の中から選出し、総会の承認を得るものと
 する。ただし選出のない任期からの理事は会長が委嘱し、
 総会の承認を得るものとする。

(4) 監事は総会において会員の中から選出する。
 《名誉会長及び顧問、相談役の設置》

名誉会長及び顧問、相談役の設置

- 二 名誉会長は本郷学園理事長にこれを委嘱する。
- 三 顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに本会会長経験者
 にこれを委嘱する。
- 四 相談役は副会長、理事、監事の経験者の中より会長がこれ
 を委嘱する。

《役員の仕事》

第九条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は会を代表して会務を総括執行する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事故あるときは、副会長間に
 おいて定める順位により会長職務を代行する。
- (3) 理事は理事会に出席して本会の運営に参画する。
- (4) 監事は会計を監査する。又、理事会及び運営委員会に出
 席し意見を述べることができる。
- (5) 理事及び監事は相互に兼ねることはできない。
- (6) 顧問、相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の仕事》

第十条 役員は次の任務を行う。

- 一 補充により選出された役員は三年間の当該任期の
 残任期とする。
- 二 補充により選出された役員は三年間の当該任期の
 残任期とする。
- 三 前第一項、第二項にかかわらず、役員は次期役員の出日ま
 では、なお、その任務を行う。
- 四 会長は役員が同窓会の役員としてふさわしくない行為を
 行った場合、又は特別の事情がある場合には、副会長と協
 議のうえ当該役員を解任することができる。

◆ 第四章 会議 ◆

《会議》

第十二条 本会が行う会議は総会、理事会、運営委員会とする。

二 会議の議長は会長がこれにあたる。

《総会》

第十三条 定期総会は毎年一回、事業年度終了後三か月以内に
 開催し、次の事項を審議し議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算の決定

- (2) 会則の改正
 - (3) 理事の承認並びに監事の選出
 - (4) 事業報告及び収支決算の承認
 - (5) その他本会の運営に関する重要事項
- 二 会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十三条 理事会は会長の要請もしくは理事の過半数の請求により開催する。

- 二 理事会は次の事項を審議し議決する。
 - (1) 会長の選出
 - (2) 第五条第2号に該当する会員の承認
 - (3) 総会の議決した事項の執行
 - (4) 総会に付議すべき事項
 - (5) 運営委員会より付議された事項
 - (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

《運営委員会》

第十四条 運営委員会は会長及び副会長、本会の事業を担当する理事で構成する。

二 運営委員会は会長の招集によって開催し、本会の日常の運営にあたる。

第十五条 第十二条第一項並びに第十三条第二項にかかわらず、緊急を要する事案は運営委員会において処理し、事後、理事会の承認を得るものとする。

◆ 第五章 事業及び議決 ◆

《事業の遂行》

第十六条 会長は、企画及び会誌の発行、会計、庶務等の副会長の担当を定め、かつこれを補佐する理事を指名する。担当副会長は理事の協力を得て本会の事業を行う。

《事務取扱者》

第十七条 本会の事務を処理するため事務取扱者を置く。担当者は運営委員会委員の中より会長が委嘱する。

《議決》

第十八条 会員は総会において発言権、議決権を有する。

- 二 総会、理事会の議決は出席者の過半数をもって決する。可非同数の場合は議長が決める。

◆ 第六章 会計 ◆

第十九条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

《事業計画及び収支予算》

第二十条 本会の事業計画書及び収支予算書は会長が作成し、総会の議決を得なければならない。ただし総会までの間は理事会の議決によることを妨げない。

《事業報告及び収支決算》

第二十一条 本会の事業報告書及び収支決算書は、会長が事業年度終了後遅滞なく作成し、監事の監査を経たうえ、総会の議決を得なければならない。

《会計》

第二十二条 本会の経費及び事業資金は次をもって充当する。

- (1) 入会金
- (2) 会員の年会費
- (3) 利息収入
- (4) 寄付金品

二 いったん納入した金品は切返還しない。

第二十三条 会員は年会費を二口式千円として二口以上を毎年納付するものとする。

二 卒業時の入会金は壹万円とする。

◆ 第七章 会則の改正 ◆

第二十四条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正することができる。

◆ 付則 ◆

本会則は平成十五年六月二十一日より施行する。
本改正会則は平成二十二年六月十九日より施行する。ただし第二十三条第二項については平成二十三年度より実施する。

以上

高 21
 大房 小黒 磯部 荒井 塩原 古川 櫻井 酒井 南原 横堀 宮田 町田 古島 橋田 戸張 斎藤 小林 大野 内山 矢代 森田 蛭田 津田 瀬崎 酒井 坂井 梶 飯沼 秋葉 増山 木下 北原 若山
 正明 満雄 章登 和夫 一男 康二 孝一 直人 英一 隆 隆 友晴 盛泰 基展 英治 邦雄 順一 知男 要司 正志 正治 秀雄 勝美 誠次 和秀 惠一 博 茂男 照久 裕二郎

高 25
 坂井 佐野 村上 野田 松島 田中 進藤 澤村 砂泊 吉沢 押田 新井 須永 中野 岡村 瀨賀 石井 白鳥 小池 久保田 遠藤 赤井 豊田 森田 堀井 中村 土屋 鈴木 杉山 遠藤 吉原 早川 野田 中田 砂田 黒杉
 成一 養信 昭次 悠二 和己 久幸 時夫 晃 照男 清 松児 康友 功 光雄 昌明 春隆 芳一 義明 辰雄 達哉 康徳 謙雄 貞夫 義夫 英世 利博 文章 実 盛男 盛男 俊博 守喜 俊雄 寿博

高 28
 井口 田中 須崎 小谷 神谷 馬島 丸田 石川 鈴木 岩崎 原田 佐藤 岡村 稲垣 立入 溝口 松平 堀島 庭野 定木 柴安弘 笹沼 稲田 中田 戸部 佐久間 春日 福田 山口 内藤 千野 大川 松崎 中田
 隆 実 幸彦 博貴 秀行 善宏 伸之 利一 充晃 俊幸 伸治 桂一 健司 清人 善明 良晴 賢司 弘 博之 俊和 久人 庄次 貞男 聖一 登 昭夫 邦雄 鉄夫 敏弘 宗喜

高 33
 岩田 天沼 伊東 三友 原 江口 石倉 米沢 高山 高橋 齋藤 幸田 橋本 富永 吉田 矢作 厩溪 石井 川崎 成田 田村 高木 菅野 飯泉 泉昇 伊東 大橋 磯ヶ谷 磯田 松原 菅原 須藤 岡野
 実 嘉章 博輝 宏樹 哲夫 研二 均 潤 文 幸 利 幸 政二郎 尚弘 浩伸 邦裕 明 有 正喜 雅弘 茂栄 俊和 弘一 彰裕 実 史郎 弘明 満夫 弘行 義則 博忠 智彦

高 36
 大沢 西廣 竹内 下島 桑谷 野口 戸張 江原 江原 竹野谷 鈴木 小池 花輪 岩崎 佐々木 藤本 藤本 渡辺 波辺 宮崎 平澤 林 秋元 酒井 青木 山口 吉田 西野 並木 中野 戸谷 奥田 宇野 磯田 吉田 高橋 杉野 齋藤 遠藤
 弘宣 宗彦 晴一 信久 貴洋 元 吉彦 啓之 茂 孝 英夫 武次 幸男 弥一 由紀夫 欣也 一 雄一 淳 俊明 康夫 豊 和夫 幸一 浩久 一美 庸克 十善 浩之 秀樹 正純 卓 千秋

高 41
 小松 小掛 高瀬 岡本 長谷川 田畑 篠原 矢野 中尾 古賀 梶 木村 山田 岩城 田久保 内山 秋山 藤田 佐々木 城和夫 横川 小野寺 荒井 久保 高野 前沢 根岸 齋藤 美谷島 直井 松本 大高 加藤 鈴木
 直人 慎太郎 知久 亨 史孝 實 政則 直樹 晋介 明 秀樹 史朗 俊一 勝 建之 竹史 薫 晋一 高昭 高樹 和彦 康雄 一樹 智敏 延存 卓也 正人 圭一 領 吉郎 貴生

高 44 高 43 高 42
 久島 千幸 藤田 清志 今井 孝幸 今井 仁 伊藤 正規 野口 拓栄 木村 秀樹 吉田 永弘 中田 一郎 上原 弘行 藤原 惠輔 根岸 由次 本井 利生 田村 裕一 石井 健太郎 鈴木 治 吉川 秀一 塩家 吹雪 高山 慎 藤原 潤一 田村 憲彦 花田 伸也 紙谷 淳一 関口 隆之 井上 貴行 小林 俊明

高 52 高 51 高 50 高 49 高 48
 坂本 若西 佐藤 良介 泉尾 英文 山本 健太郎 滝澤 一晴 越川 雅文 梶野 貴経 宇島 剛也 古田 順也 堀越 亮 中澤 国彦 斉藤 利幸 中村 元気 新井 亮輔 新井 光央 網島 宗介 宇田川 太 豊川 浩成 中溝 健晴 種村 昌之 林 誠吾 安井 督 堀 洋平 町田 健 薄井 健吾 立川 嘉久 中村 織雄 杉下 和行 板橋 寿和 増田 健次 稲生 雄一郎 秀野 泰隆 酒井 陽介 香取 範充

高 58 高 57 高 56 高 55 高 54 高 53
 並木 幹夫 宮川 和人 新見 陽介 石村 賢 谷口 貴生 山口 遼 山本 崇史 菅原 一輝 後藤 隆徳 木内 健義 卯坂 潤一郎 川田 大助 船渡川 哲 高井 俊宏 岩村 淳弘 新村 佳央 大塚 真弘 塚田 匡 佐藤 裕明 大河内 伸剛 小泉 信吾 中村 健一 西島 章夫 鶴木 周 大澤 思朗 正木 健彦 戸澤 信太郎 土橋 篤仁 北村 孝人 小泉 徳宏 北村 秀昭 高橋 祐磨 中井 秀哉 根岸 達哉 後藤 泰治 中村 旭 小藤 寛之 齋藤 秀雄

高 61 高 60 高 59
 築山 周 田中 暢也 花村 駿 川野 雄平 森下 修 町田 弘基 小穴 泰裕 渡邊 貴之 山本 直生 黒田 直哉 中山 雄平 正木 竜作 陶山 竜也 木下 智大 矢吹 卓大 宮崎 聡樹 宮崎 悠也 吉田 成輝 吉田 駿一郎 藤井 翔太郎 鳥居 暁 吉田 玲生 由利 卓哉 松本 康佑 廣瀬 貴充 鷺澤 仁志 吉川 大輔 村川 東 荒井 崇聡 林 輪太郎 小泉 春樹 小泉 隼人 金屋 春樹 梅田 健斗 尾上 明広 池田 俊輔 池田 一樹 金尾 晋一郎 田中 義輝 秋本 悠樹

高 65 高 64 高 63 高 62
 須藤 大介 横澤 智大 常世田 康司 幸田 陽一郎 申 俊利 内藤 亮 浅見 竺太 宮原 正知 高木 諒弘 梅田 貴弘 石橋 拓也 河野 遼 松本 朔 西山 幹生 櫻井 幹久 堀川 輝久 望月 秀介 江原 慶介 関田 宗範 藤田 肇 津内 直人 三好 亮麻 木塚 康太 伊藤 健太 小林 祐樹 兵頭 義章 鈴木 亨尚 金 晟徴 川島 尚哉 平田 亜希良 大澤 健俊 尾上 明広 植田 耕平 南方 貴輝 村田 貴輝 加藤 彰 杉浦 貴則 高橋 良平

高 68 高 67 高 66
 安田 直樹 富樫 和貴 駒野 清剛 山岸 洋紀 松尾 裕大 古川 裕 石原 良太郎 鈴木 直毅 金田 文也 丹羽 俊博 丹羽 祐貴 遠藤 雅之 遠藤 雅之 青木 瑞樹 山崎 達 村田 捷行 藤田 輝 加茂 大輝 上原 大晟 佐藤 秀行 村上 貴哉 北野 悠太 橋本 隆太 古谷 龍一 近藤 直人 間明田 泰久 駒井 惠太 田口 雄飛 井上 智皓 川崎 良平 松永 啓佑 永野 友基 野口 諒 野口 諒 小林 弘樹 外山 達也 新井 倫也

編集後記

高校ラグビー全国大会（花園）に出場したラグビー部主将の手記には感動しました。「高いレベルの『文武両道』を目標に花園出場と二橋大学現役合格の達成です。そして『感謝の心』の大切さを強調して結んでいるのに、さらに感動。」（I）

同期会「還暦の集い」に続き、「30歳の集い」もスタートしました。2006年卒業（高校58回生）の同期生です。今後はフェイブックでグループを立ち上げ、同期の輪を広げていくとことです。こういう方法もあるのですね。」（I）

染井能舞台物語は毎回テーマを変えてきました。初回は概要、パート2は大正8年、今回のパート3は昭和20年代です。次のパート4では、染井能舞台と名を変えた大正8年からちょうど100年にあたり、歴史を俯瞰する企画を構想中です。（N）

討 報

謹んでご冥福をお祈り致します
同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

中10 大多和 利治
中14 藤井 稔
中 益子 信邦
中18 妹尾 尚
高6 高橋 利彰
高11 加藤 久也
高12 西岡 克夫
高13 沢田 憲昌
高15 野口 靖
高16 鮑田 博
高23 清水 磯五郎
高23 岡本 新介

大島 正己
南 健一
高29 後藤 欽仁
高51 鮫島 仁

丸山 雅貴
高橋 修明
岩井 惇一郎
中野 幸夫
森 可智
田部 功明
峯崎 創平
佐々木 魁
芹澤 礼人
薄 貴久
齋藤 玄
光井 直哉
須賀 万貴
木村 洋一
加藤 隼人
菅谷 昌久
山浦 悠一郎
桂 彰寿
北村 俊徳
立花 光陽
永山 将太郎
蜂谷 武弘
河間 雄貴
田中 大暉
木原 佑斗
保島 紀信
藤本 侑生
鈴木 凌
辻 佑樹
岸野 達也
島中 晃平
神野 広希
太田 侑治
山屋 慎
中山 晃一
宮崎 直哉
井田 光祝
藤本 智郎
青柳 慶人
高田 賢
鮎貝 理寛
荒船 貴信
小林 拓生
新 拓樹
石井 亮丞
北川 裕貴
木下 祐志
大越 貴徳
藤田 晃徳
光井 友哉
有山 泰正
野澤 勇祐

高70

坂上 大貴
古田 耀一
谷口 裕基
横井 佑歌
小木下 寧音
岩淵 友哉
横須賀 晴鷹
村田 智進
恩田 玲央
林 凛太郎
他1名
不明者
スズキ ヤスヨシ
タチバナ ユウスケ
納入者数 775人

※万全を期したつもりですが、
万が一、お名前の漏れや誤
字、脱字などの間違いがあ
りましたらご容赦ください。
FAXでご一報いただけれ
ば幸甚です。

FAX
03139170007

本郷学園校歌

ああ柱苗木の青年われら
 つとめば未来に何えせざらむ
 さらば固めよ処世のものと
 こころは剛毅に身は強健に
 ああわれら 誇りの本郷学園

今は学園ここに開けて
 国の柱の苗木を育つ
 ああわれら 誇りの本郷学園

むかしは植樹の名どころ染井
 とりわけ紅葉の錦に知らる
 今は学園ここに開けて
 国の柱の苗木を育つ

作詩 坪内逍遙
 作曲 信時潔

南



本郷祭(学園文化祭)を同窓生交流の場に

— 9月21日(土)、22日(日) —

同窓会展示室を開設(当日のプログラムでご案内します)